

科 目	自然科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	小岩 信義	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	心身健康科学概論（人間総合科学大学刊/紀伊国屋書店発売）
成績評価	定期試験にて評価する
留意事項	講義では、講義内容に関するプリントを配布する。講義ノートをつけるとともにプリントを整理して保管し、学習に役立てること。

科目の目標	人間のこころと身体の相互作用（心身一如/心身相関）を支える法則と、科学的な仕組みを理解し、「よりよく生きる」ための科学的な知恵を考える。
授業概要	鍼灸臨床にも必要となる心身一如・心身相関に関する科学的理解と、この知見を生活の中でどのように活かすのか、その工夫について学修する。

日程

回 数	授業内容
1	心身相関の科学の特徴と社会背景
2	生きることと心身相関の科学（生活と神経神話、科学リテラシー）
3	感覚・運動と心身相関①（感覚の種類、統合感覚、痛覚、運動）
4	感覚・運動と心身相関②（感覚と知覚の違い、注意、錯覚、意識と無意識）
5	身体図式と心身相関（感覚の統合、深部感覚、自己意識と「からだ」）
6	ストレスと心身相関①（HPA系、SAM系、神経新生）
7	ストレスと心身相関②（ストレスの新しい考え方）
8	からだのリズムと心身相関（心拍・呼吸のゆらぎ）
9	幸福感/健康観と心身相関（報酬系と欲求、知足）
1 0	経済行動と心身相関（利他的行動、囚人のジレンマ、最後通牒課題）
1 1	社会生活と心身相関（社会脳と大脳辺縁系）
1 2	共感と心身相関（ミラーニューロン）
1 3	記憶と心身相関（記憶の種類としくみ）
1 4	こころが生まれる仕組み（ネットワーク、スモールワールド現象）
1 5	定期試験
1 6	定期試験の解答と解説

科 目	身体と科学	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	橋本 侑也	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	「勝ちにいくスポーツ心理学」(山海堂)
成績評価	定期試験で評価
留意事項	特になし

科目の目標	人体の生理メカニズムの理解、スポーツ科学やトレーニングについて学ぶ。
授業概要	身体のメカニズムを知り、スポーツを行う時の身体の動き・しくみ、様々な環境下における生理応答のメカニズムとその機能を理解する。

日程

回 数	授業内容
1	授業ガイダンス
2	機能解剖 骨について1
3	機能解剖 骨について2
4	機能解剖 骨について3
5	機能解剖 筋について1
6	機能解剖 筋について2
7	機能解剖 筋について3
8	レジスタンストレーニング1
9	レジスタンストレーニング2
10	スポーツバイオメカニクス
11	イメージトレーニング
12	メンタルトレーニング
13	スポーツ心理学
14	まとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	人文科学（医用英語）	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	金井 泉寿	教員区分	一般教員

教科書	“English Indicator 2 <Pre-Intermediate>” 及び「配付資料」（授業の都度配布）
参考書	「鍼灸師・柔道整復師のための医学英語」 中村清他著 医道の日本社
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 通学途上などの細切れの時間を活用するなどして、短時間でも毎日英語に触れることを推奨する。 2. 授業は、学生主体の「プラクティス」を多用する。授業（プラクティス）に積極的に参加する姿勢を重視する。

科目の目標	教科書及び配布資料に基づき、英語の4技能（「読」「書」「聞」「話」）を総合的にプラクティスして、医療人として必要な語学（英語）能力の基礎を確立する。
授業概要	1. 「読」 : エッセイ及び医療系英文を読む訓練を通じ関連用語・語句等を理解 2. 「書」 : 整序英作文等を通じ、関連語句等の用法の習得 3. 「聞」 : 会話文のリスニングを通じリスニング能力の基礎を確立 4. 「会話」 : 施術所等での会話の役割練習を通じ口頭表現要領を習得

日程

回 数	授業内容
1	読・書・聞: “Our Aging Society” 会話: “At the Reception”
2	読・書・聞: “Holiday Memories” 会話: “Patient Registration Form”
3	読・書・聞: “human body” 会話: “Medical Information Sheet”
4	読・書・聞: “sport” 会話: “To the Examination Room”
5	読・書・聞: “Lifestyles” 会話: “Referral Letter”
6	読・書・聞: “Blood circulation” 会話: “Medical Interview I”
7	読・書・聞: “Sizes” 会話: “Medical Interview II”
8	読・書・聞: “Bathrooms” 会話: “Shoulder Stiffness (I)”
9	読・書・聞: “Judo therapist” 会話: “Shoulder Stiffness (II)”
10	読・書・聞: “Recycling” 会話: “Shoulder Stiffness (III)”
11	読・書・聞: “Crumbling Britain” 会話: “Comprehensive training(1)”
12	読・書・聞: “Technology and Us” 会話: “Comprehensive training(2)”
13	読・書・聞: “Judo therapy treatment” 会話: “Comprehensive Training(3)”
14	読・書・聞: “Manual therapy techniques” 会話: 第11～14回の演練
15	定期試験
16	定期試験解答と解説、総合復習

科 目	人間学Ⅰ（哲学的人間学）	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	吉川 竹明	教員区分	一般教員

教科書	指定なし（毎回の授業で授業プリント冊子を配布し、利用する）
参考書	「正義論の名著」中山元（ちくま新書） 「社会契約論」重田園江（ちくま新書） 「社会思想の歴史」生松敬三（岩波現代文庫）
成績評価	定期試験
留意事項	授業の進行に応じ適宜、グループ討議をし、自己の考えを確立していく。

科目の目標	哲学とは、何か。何を対象に研究しているものか。そして、哲学は私たちにどう役立つものなのか。哲学の概論解説紹介を通して、各自が考え、上記の疑問への解答を見出していく。さらに自己の考え・価値観を再確認する。
授業概要	西洋哲学の代表的「哲学者」の説を取り上げ、上記の「科目の目標」に迫っていく。また、代表的な哲学用語を取り上げ、その理解を通して、「哲学者」の説への理解を深めていく。また、私たちを取り巻く状況へ、自分なりに思考し、言語化することが求められる。

日程

回数	授業内容
1	ガイダンス・哲学とは・自分の考えを明確にする・理解と納得
2	「正しい」「正義」とは何か 1：最大多数の最大幸福とは
3	「正しい」「正義」とは何か 2：ロールズの正義論 平等と公平とは
4	「正しい」「正義」とは何か 3：コミュニタリアニズムとリバタリアニズム
5	「正しい」「正義」とは何か 4：カントの定言命法と仮言命法
6	「自分」とは何か 1：自分について把握する
7	「自分」とは何か 2：デカルトとスピノザ 精神の存在と汎神論
8	「自分」とは何か 3：ベーコンとヒューム イギリス経験論について
9	「自分」とは何か 4：キルケゴール・サルトル・ヤスパース 実存主義について
10	「社会」とは何か 1：ホッブス・ロック・ルソー 社会契約説について
11	「社会」とは何か 2：ヘーゲル・マルクス 弁証法について
12	「社会」とは何か 3：フーコー 見えない権力と常識
13	「人生」とは何か 1：人の死と安楽死の是非
14	「人生」とは何か 2：エピクロスの快楽主義 ゼノンの禁欲主義
15	定期試験
16	まとめ

科 目	解剖学Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	渡辺 悠美	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	適宜紹介
成績評価	2回目以降に授業内で行う小テストの成績を2割、期末試験の成績を8割の総合評価とする。 ただし、期末試験で60点未満、総合評価60点未満の者は再試験とする。
留意事項	3年間の勉強の基礎となる科目のため、しっかりと復習をしましょう。 グループワークの授業も実施するので、積極的にクラスの仲間とコミュニケーションをとりましょう。

科目の目標	人間の体のつくり(構造)を学び、人体に興味を持つ。
授業概要	全身の骨の名称の正しい名前・位置を覚える。 全身の関節の構成と形状を覚える。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・全身の骨の名称
2	上肢帯・上腕
3	前腕・手
4	下肢帯・大腿
5	下腿・足
6	寛骨・脊柱
7	頭蓋骨1
8	頭蓋骨2
9	中間テスト
10	骨の総論・関節の総論
11	上肢の関節
12	下肢の関節
13	脊柱・胸郭の関節
14	総復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	解剖学Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	野田 節子	教員区分	一般教員

教 科 書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参 考 書	「入門人体解剖学」(南江堂) 「これならわかる要点解剖学」(南山堂) 「分担解剖学」(金原出版) 「プロメテウス解剖学アトラス」(医学書院) 他に授業時に配布する資料を参考にする。
成績評価	定期試験の結果による。
留意事項	100%の出席を目指す。授業に集中する。

科目の目標	前期は解剖学の概説を学び、続いて循環器系と呼吸器系の構造と機能を知る。学ぶ過程では、常に自身に投影させる努力をすることで人体の営みを身近なものとして理解する。
授業概要	人体を構成する組織、循環器系、呼吸器系の各部位・各臓器の正確な名称を把握する。その上で、体内におけるそれらの位置関係(立体構造)と役割を理解する。

日程

回 数	授業内容
1	第1章人体の構成 1:細胞(細胞の構造、細胞分裂)
2	第1章人体の構成 2:組織(上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織)
3	第1章人体の構成 3:体表解剖(皮膚の構造・神経と血管、毛、爪、皮膚腺)
4	第2章循環器系 1:血管系(概要、構造、体循環と肺循環)
5	第2章循環器系 2:心臓(位置、心膜、心房と心室、弁膜、刺激伝導系、心臓の血管)
6	第2章循環器系 3:動脈系(肺循環の動脈系、体循環の動脈系)
7	第2章循環器系 4:静脈系(肺循環の静脈系、体循環の静脈系、門脈循環系)
8	第2章循環器系 5:胎児循環 6:リンパ系
9	体幹の脈管(228~232p)、上肢の脈管(257~258p)
10	下肢の脈管(287~289p)、頭頸部の脈管(305~309p)、循環器系の復習
11	第3章呼吸器系 1:呼吸器系の総論、鼻腔と副鼻腔
12	第3章呼吸器系 2:咽頭と喉頭 3:気管と気管支 4:肺(肺の構造、胸膜、縦隔)
13	呼吸器系の復習
14	前期の問題演習
15	定期試験
16	定期試験解説

科 目	生理学Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社)
成績評価	定期試験による
留意事項	病理学や臨床医学各論の基礎となる科目のため理解することに重きをおく。

科目の目標	生体の正常な機能を理解することで、他の基礎分野・専門基礎分野・専門分野を学ぶ上での基礎を養い、はり師・きゅう師に必要な生体の機能を習得する。
授業概要	本講義では、循環、生体の防御機構、呼吸について取り上げ、人体の生理を維持するメカニズムなどを学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	循環1：血液の組成と働き（赤血球）
2	循環2：血液の組成と働き（白血球，血小板，血漿）
3	循環3：止血，線維素溶解
4	循環4：血液型，心臓血管系，心臓の構造
5	循環5：心臓の構造と働き（心筋の特性，刺激伝導系，心機能の調節）
6	循環6：心臓の構造と働き（心電図，神経支配） 血液循環（血管，脈拍，毛細血管の循環）
7	循環7：血液循環（静脈，神経支配，血圧）
8	循環8：循環調節（調節の仕組み，循環中枢，反射性調節，高位中枢からの影響）
9	循環9：循環調節（特殊な部位の循環），リンパ系 生体の防御機構1：生体の防御機構（自然免疫，獲得免疫）
10	生体の防御機構2：生体の防御機構（白血球，液性因子，リンパ系器官）
11	生体の防御機構3：免疫反応の分類（液性免疫と細胞性免疫，炎症，アレルギー，自己免疫疾患）
12	呼吸1：呼吸器（外呼吸と内呼吸，構造と機能），換気とガス交換（肺機能）
13	呼吸2：換気とガス交換（交換と運搬），呼吸運動とその調節（吸息，呼息，胸腔内圧）
14	呼吸3：呼吸運動とその調節（呼吸中枢，反射性調節，異常）
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	生理学Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	根本 香代	教員区分	一般教員

教 科 書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参 考 書	特に指定しない
成績評価	小テスト、課題提出、定期試験による総合評価 総合評価、または定期試験が60点に満たない者は再試験とする
留意事項	授業をよく聞き、復習を必ず行なうこと

科目の目標	生体は生命を維持するために、内部環境の恒常性を保っている。生理学では、われわれの身体がこの恒常性を維持するためにどのように働いているかを主として各器官系別に学ぶ。本科目の生理学Ⅲにおいては、生理学の基礎、内分泌、生殖、身体活動の協調、体温について学ぶ。
授業概要	教科書に沿って生理学の知識を深めていく。随時、小テストを行い、理解の度合いを確認しながら、進める。

日程

回 数	授業内容
1	生理学の基礎①：生理機能の特徴、細胞の構造と機能
2	生理学の基礎②：物質代謝、体液の組成と働き、物質移動
3	内分泌①：ホルモンの特徴
4	内分泌②：視床下部ホルモン、下垂体ホルモン
5	内分泌③：甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、膵臓のホルモン
6	内分泌④：副腎のホルモン
7	内分泌⑤：性ホルモン
8	生殖①：生殖
9	生殖②：妊娠と出産、成長と老化
10	身体活動の協調①：生体の適応、恒常性維持
11	身体活動の協調②：バイオリズム
12	体温①：体温調節、体熱の産生と放散
13	体温②：発汗とその調節、体温調節の障害
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	医療倫理	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	「社会あはき学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験による
留意事項	自分で考え、積極的に発言する。

科目の目標	治療者とは何か、治療者がとるべき態度はいかなるものか、治療者に必要なものは何か、そして何のために鍼灸師になろうと思ったのか、上記の事を踏まえ医療倫理を考察し、あわせて現代の諸問題、課題を考えていく。
授業概要	治療者としての基本的な心構え、知識を共に考えていく。

日程

回 数	授業内容
1	鍼灸師として将来はどうあるべきか①
2	鍼灸師として将来はどうあるべきか②
3	鍼灸師として将来はどうあるべきか③
4	鍼灸師として将来はどうあるべきか④
5	職業としての鍼灸
6	現代の課題、諸問題
7	定期試験
8	定期試験の考察

科 目	はりきゅう理論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	原 島 基	教員区分	一般教員

教 科 書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参 考 書	「はりきゅう実技<基礎編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
成績評価	定期試験を8割、小テストを2割として総合評価をする。 総合評価、または定期試験が60点に満たない者は再試験とする。
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。 教科書は持参して下さい。 授業内容の復習を心掛けて下さい。 進行状況により、シラバスの内容が変更されることもあります。

科目の目標	本科目は「鍼」と「灸」の基礎知識を学び、そのリスクについて理解することを目標とする。
授業概要	鍼灸臨床で用いる器具、技術、衛生的処置をきちんと理解し実践できること。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション
2	鍼の基礎知識
3	刺鍼の方式と術式①
4	刺鍼の方式と術式②
5	特殊鍼法
6	灸の基礎知識
7	灸術の種類
8	鍼灸の臨床応用①
9	鍼灸の臨床応用②
10	鍼灸の臨床応用③
11	リスク管理①
12	リスク管理②
13	リスク管理③
14	総合演習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	経絡経穴概論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	内藤 玄吾	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	ツボがある本当の意味 (BABジャパン) 針灸学「経穴編」 (東洋学術出版社) 経穴主治症総覧 (医道の日本社) 臨床経穴ポケットガイド (医歯薬出版)
成績評価	小テスト3割, 定期試験7割による総合評価。 総合評価, または定期試験が60点に満たない者は再試験とする。
留意事項	経穴カードを次回までに作成してくること。期日までに未作成の者は減点(-5点)とする。 授業内だけで覚えられる量では無いので, 自宅での学習に努めること。

科目の目標	経絡経穴についての基礎的知識(経絡名・経穴名・取穴部位)を理解習得し, 鍼灸師としての基礎を作る。
授業概要	講義とアクティブラーニングの形式で実施する。講義では経穴名の由来と主治について, アクティブラーニングでは絵を書き, ビジュアルで経絡の流れと取穴法を記憶整理する。

日程

回 数	授業内容
1	1章 経絡・経穴の基礎, 2章 十四経脈とその経穴 手の太陰肺経①
2	2章 十四経脈とその経穴 手の太陰肺経②, 手の陽明大腸経①
3	2章 十四経脈とその経穴 手の陽明大腸経①
4	2章 十四経脈とその経穴 手の陽明大腸経②
5	2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経①
6	2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経②
7	2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経③
8	2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経④
9	2章 十四経脈とその経穴 足の太陰脾経①
10	2章 十四経脈とその経穴 足の太陰脾経②
11	2章 十四経脈とその経穴 手の少陰心経, 手の太陽小腸経①
12	2章 十四経脈とその経穴 手の太陽小腸経②
13	2章 十四経脈とその経穴 督 脈, 任 脈
14	まとめ
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	東洋医学概論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	飯塚 聡	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	適宜、紹介をする
成績評価	定期試験の結果を主に、授業へ参加する姿勢も考慮の対象とする。
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。質問は授業終了時までには必ず行い、疑問を持ち越さないこと。

科目の目標	東洋医学についての基礎的な知識を学び、専門用語を理解する。 東洋医学的な人体の見方や病理を理解し、国家試験や臨床に応用する力をつける。
授業概要	東洋医学の歴史や哲学、人体の見方やその生理・病理を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	第1章 東洋医学の特徴：東洋医学の沿革・人体の見方 第3章 東洋医学の思想：陰陽学説
2	第3章 東洋医学の思想：五行学説
3	第1章 東洋医学の特徴：日本の東洋医学の現状
4	第2章 生理と病理：生理物質と神（生理物質）
5	第2章 生理と病理：生理物質と神（神）
6	第2章 生理と病理：生理物質と神（人体における陰陽）
7	第2章 生理と病理：蔵象学説
8	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（肝）
9	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（心）
10	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（脾）
11	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（肺）
12	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（腎・三焦）
13	第2章 生理と病理：五臓の相互関係・六腑の協調関係
14	第2章 生理と病理：全身の気機
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	鍼基礎実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	北園 実鈴	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技＜基礎編＞ 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	実技試験・授業態度・出席状況による総合評価。 実技試験が6割以下の者、及び総合評価が6割以下の者は再試験とする。
留意事項	実習内容について毎日反復練習に努めること 体調をしっかりと管理し、遅刻・欠席をしないこと(欠席－4点、遅刻・早退－2点、ふさわしくない身だしなみ－2点)

科目の目標	刺鍼の基本および身体各部への安全な刺鍼法を習得する。 鍼灸師として施術に必要な衛生概念を身につける。
授業概要	刺鍼に必要な基礎知識を学習する。衛生管理(用具・手指などの清潔保持、消毒)、医療過誤の概要を学ぶ。安全に適切な刺鍼が行えるよう基礎技術を習得する。

実務経験	鍼灸接骨院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った刺鍼技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	鍼の基礎知識① 手指の衛生管理
2	鍼の基礎知識② 姿勢、鍼の衛生的な準備、刺手、挿管
3	押手
4	前揉法～立管①、切皮①
5	部位消毒、前揉法～立管②、切皮②、抜鍼
6	鍼の基礎知識③ 部位消毒～切皮(各自：大腿部)①
7	部位消毒～切皮(各自：大腿部)②、刺入練習(刺鍼練習器など)①
8	刺入練習(刺鍼練習器など)②、鍼尖感覚の練習
9	鍼の基礎知識④ 刺入練習(各自：大腿部)①
10	刺入練習(各自：大腿部)②

1 1	刺入練習（各自：大腿部）③
1 2	刺入練習（各自：大腿部）④
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	フィードバック
1 6	刺入練習（各自：下腿部）

科 目	灸基礎実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	前窪 美香	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技＜基礎編＞ 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
成績評価	実技試験, 課題提出, 出席状況, 授業態度, 身だしなみによる総合評価。 実技試験が6割以下の者, 及び総合評価が6割以下の者は再試験とする。
留意事項	火の取り扱いに十分注意し, 自宅でも反復練習に努めること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること(ふさわしくない身だしなみ-2点)。 体調をしっかりと管理し, 遅刻・欠席・早退をしないこと(欠席-4点, 遅刻・早退-2点)。

科目の目標	灸に関する基礎的な知識, 技術を習得し, 灸施術における動作を安全かつ正確に行える能力・態度を身に付ける。
授業概要	灸の基礎知識を学び, 施灸の基礎技術を習得する。

実務経験	鍼灸接骨院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	授業の概要と進め方, 実習上の諸注意, 備品の取り扱い・準備について
2	灸の基礎知識①, 施灸練習(艾のひねり方, 艾の立て方)①
3	灸の基礎知識②, 施灸練習(艾のひねり方, 艾の立て方)②
4	施灸練習(線香の使い方, リスク管理)
5	施灸練習(点火)①
6	施灸練習(点火)②
7	施灸練習(灸温度計)
8	施灸練習(紙への施灸)①
9	施灸練習(紙への施灸)②
10	施灸練習(紙への施灸)③

1 1	施灸練習（紙への施灸）④
1 2	施灸練習（紙への施灸）⑤，実技試験説明
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	試験のフィードバック，施灸練習（糸状灸）①
1 6	施灸練習（糸状灸）②，自身への施灸

科 目	社会科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	32
		履修年次	1 学年
		実施学期	後期
教 員 名	渡邊 智寛	教員区分	一般教員

教科書	指定なし。教員が資料を配布する。
参考書	指定なし。授業で参考文献を紹介する。その中のいずれかを開講期間中に読んでみることを推奨する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	具体的社会事象を扱う。場合によっては最新の時事問題を取り上げることも考えられるため、普段から新聞・テレビ・ネット等を用いてニュースに触れていることが望ましい。シラバスの一部変更がありうるが、その際は事前にアナウンスする。

科目の目標	さまざまな社会現象を、学際的な視点から読み解いていく。身近でありながらも普段顧みられることの少ない法や行政制度を、既存の固着化したシステムとしてではなく、生きた人間関係のレベルに引き戻して考える。その他、犯罪者や病者、障害者などを取り巻く問題の検討を通じ、社会保障や公衆衛生についても理解を深める。
授業概要	シネメデューケーション cinemeducation*形式で授業を進める。 *映画やテレビ番組の一部を教育に使用する教育方略

日程

回 数	授 業 内 容
1	社会科学とは何か——社会科学のアウトライン 社会を知る『フルメタル・ジャケット』
2	社会とは何か——集団・組織、フォーマル組織・インフォーマル集団、社会化
3	通過儀礼①——通過儀礼の具体例とその意味 少年から大人へ『スタンド・バイ・ミー』
4	通過儀礼②——分離→移行→結合のプロセス、死と再生のシンボリズム
5	現代社会生活と法①——憲法・刑法・刑事訴訟法 刑事裁判を知る『それでもボクはやってない』
6	現代社会生活と法②——刑事裁判の問題点
7	裁判員制度①——裁判員制度に関する詳細、市民参加型裁判の類型 裁判員制度の手続き『審理』
8	裁判員制度②——判決・量刑、正当防衛・過剰防衛・執行猶予
9	社会と犯罪①——犯罪をめぐる解釈枠組み 社会と犯罪者『時計じかけのオレンジ』
10	社会と犯罪②——社会的排除・包摂 累犯障害者問題「各種ドキュメンタリー」

1 1	ネット社会と監視社会①——ネット犯罪と関連法規 インフラとしてのネット『サマーウォーズ』
1 2	ネット社会と監視社会②——監視社会と管理社会 安全とプライバシー『マイノリティ・レポート』
1 3	社会保障と公衆衛生①——医療保険制度、高齢者介護問題 社会保障の意味を巡る『SICKO』
1 4	社会保障と公衆衛生②——国家試験関連過去問解説
1 5	定期試験
1 6	定期試験の解答解説、授業総括

科 目	解剖学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	山内 清敬	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	適宜紹介
成績評価	授業内で行うグループワーク・小テストの成績を2割、期末試験の成績を8割の総合評価とする。 総合評価60点未満の場合は再試験とする。ただし、期末試験で60点未満の者も再試験とする。
留意事項	グループワークでの授業がメインとなるため、積極的にクラスの仲間とコミュニケーションをとること。 授業の復習を必ず行うこと。次回の授業時に前回分の小テストを行う。

科目の目標	前期の知識(骨の名称)をもとに、筋肉がどこにあるのかを理解する。 筋肉の作用が日常生活のどの動作に関連するか考える練習をする。
授業概要	全身にある重要な筋肉の起始・停止・支配神経・作用を覚える。

日程

回 数	授業内容
1	上肢帯・上腕の筋
2	前腕の屈筋(浅層・深層)
3	前腕の伸筋(浅層・深層)
4	大腿の筋(前面・内面・後面)
5	下腿の筋(前面・外側面・後面)
6	体幹の筋(浅胸筋・深胸筋・横隔膜)
7	腹部・背部の筋
8	背部の深層筋
9	内寛骨筋・外寛骨筋
10	咀嚼筋・頸部・表情筋
11	復習テスト
12	舌骨上筋・舌骨下筋
13	会陰筋・手の内在筋・足の内在筋
14	総復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	解剖学Ⅳ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	後期
教 員 名	野 田 節 子	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「入門人体解剖学 改定5版」藤田恒夫 著 (南江堂) 「これならわかる要点解剖学」田沼久美子ら 著 (南山堂) 「分担解剖学3 感覚器学・内臓学 第11版」小川鼎三 著 (金原出版) 「プロメテウス解剖学アトラス シリーズ」(医学書院) 授業時に配布する資料
成績評価	定期試験の結果による。
留意事項	100%の出席を目指す。集中して授業に参加する。

科目の目標	内臓学の構造と機能を学ぶことで、各自が各臓器を自身に投影させ人体の営みを理解する。
授業概要	消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の名称と形態を中心に学び、体内における相互の位置関係(立体的構築)を把握し、その役割を理解する。

日程

回 数	授業内容
1	消化器系1 消化器系の総論と組織、口腔
2	消化器系2 咽頭、食道、胃
3	消化器系3 十二指腸、肝臓、胆嚢、膵臓
4	消化器系4 空腸、回腸、結腸、直腸、肛門
5	消化器系5 腹膜、腸間膜、消化器系のまとめ
6	泌尿器系1 泌尿器系の総論と組織、腎臓
7	泌尿器系2 尿路、泌尿器系のまとめ
8	生殖器系1 女性生殖器系
9	生殖器系2 男性生殖器系
10	生殖器系3 受精と発生、生殖器系のまとめ
11	内分泌系1 脳下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体
12	内分泌系2 副腎、膵臓、性腺
13	内臓系のビデオ閲覧
14	解剖学Ⅳの復習
15	定期試験
16	定期試験解説

科 目	解剖学Ⅴ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	島田 和幸	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「解剖学カラーアトラス 第8版」横地千仞 著 (医学書院) その他必要に応じてプリントを配布。
成績評価	小テスト2割、定期試験8割による総合評価。 定期試験60点が未満の者、総合評価が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	予習・復習には十分時間をかけること。

科目の目標	神経系・感覚器系の構造(形態)を学ぶことで、各器官との相互関係を知り、各疾患等の病態を理解する礎を築く。
授業概要	教科書に従って行なう。

日程

回 数	授業内容
1	神経系 1 神経系の総論ならびに概要(神経組織、神経膠細胞)
2	神経系 2 中枢神経 1 脊髄、延髄、橋、中脳
3	神経系 3 中枢神経 2 小脳、間脳、大脳(機能局在、基底核含む)
4	神経系 4 脳の血管、脳室系、髄膜、脳脊髄液
5	神経系 5 伝導路・脳神経 1
6	神経系 6 伝導路・脳神経 2
7	神経系 7 伝導路・脳神経 3
8	神経系 8 脊髄神経 1 全体像、デルマトーム、
9	神経系 9 脊髄神経 2 頸神経、腕神経叢、胸神経
10	神経系 10 脊髄神経 3 腰神経叢、仙骨神経叢
11	神経系 11 自律神経
12	感覚器系 1 嗅覚器、視覚器(伝導路含む)
13	感覚器系 2 平衡聴覚器、味覚器
14	神経系の総まとめ
15	定期試験
16	授業総括

科 目	生理学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「標準生理学」小澤滯司/福田康一郎 監修(医学書院) 「人体の正常構造と機能 第3版」坂井建雄 編集(日本医事新報社)
成績評価	定期試験
留意事項	病理学や臨床医学各論の基礎となる科目のため理解することに重きをおく。

科目の目標	生体の正常な機能を理解することで、他の基礎分野・専門基礎分野・専門分野を学ぶ上での基礎を養い、はり師・きゅう師に必要な生体の機能を習得する。
授業概要	本講義では、消化と吸収、代謝、排泄について取り上げ、人体の生理を維持するメカニズムなどを学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	消化と吸収1:消化と吸収,消化管の運動(咀嚼,嚥下)
2	消化と吸収2:消化管の運動,働き,消化液(胃)
3	消化と吸収3:消化管の運動,働き,消化液(小腸,膵臓,胆嚢)
4	消化と吸収4:消化管の運動,働き,消化液(小腸,大腸)
5	消化と吸収5:肝臓の働き,摂食の調節
6	代謝1:食品と栄養素(栄養素の働き),代謝(栄養素のエネルギー,エネルギー代謝)
7	代謝2:各栄養素の働きと代謝(糖質,脂質)
8	代謝3:各栄養素の働きと代謝(タンパク質,ビタミン・無機質・水,代謝の調節)
9	消化吸収,代謝のまとめと復習
10	排泄1:腎臓の働き,腎循環
11	排泄2:尿生成(ネフロンと尿生成,糸球体濾過,尿細管の再吸収)
12	排泄3:尿生成(尿細管の分泌,腎機能の測定,尿の成分)腎臓と体液の調節
13	排泄4:蓄尿と排尿
14	排泄のまとめと復習
15	定期試験
16	解答と解説

科 目	生理学Ⅳ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	根本 香代	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	特に指定しない
成績評価	小テスト、課題提出、定期試験を総合的に評価する 総合評価、または定期試験が60点に満たない者は再試験とする
留意事項	授業をよく聞き、復習を必ず行なうこと

科目の目標	生体は生命を維持するために、内部環境の恒常性を保っている。生理学では、われわれの身体がこの恒常性を維持するためにどのように働いているかを主として各器官系別に学ぶ。本科目の生理学Ⅳにおいては、神経および感覚の機能について学ぶ。
授業概要	教科書に沿って生理学の知識を深めていく。随時、小テストを行い、理解の度合いを確認しながら、進める。

日程

回 数	授業内容
1	神経：ニューロンの構造と働き、神経線維の興奮伝導
2	神経：シナプス伝達
3	神経：中枢神経系の分類と機能
4	神経：反射、脊髄、脳幹
5	神経：小脳、視床、視床下部
6	神経：大脳、脳脊髄液
7	神経：末梢神経系の分類と機能
8	神経：自律神経系Ⅰ
9	神経：自律神経系Ⅱ
10	感覚：感覚の分類と一般的性質
11	感覚：体性感覚
12	感覚：内臓感覚、痛覚
13	感覚：味覚と嗅覚、聴覚、平衡感覚
14	感覚：視覚
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	医療概論	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	原 島 基	教員区分	一般教員

教科書	「医療概論」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「50の事物で知る 図説 医学の歴史」Gill Paul 著(原書房) 「まんが 医学の歴史」茨木保 著(医学書院)
成績評価	定期試験
留意事項	教科書を必ず持参すること。 授業内容の復習を心掛けること。

科目の目標	西洋医学、東洋医学、日本の医学の変遷について理解を深める。 また、現代の医療制度や医療倫理を理解する。
授業概要	医療の変遷を学習し、その全体像を理解する。 国家試験に出題される内容の要点を理解する。

日程

回 数	授業内容
1	第1章 医療概論とは・西洋医学史
2	第1章 西洋医学史
3	第1章 東洋医学史・日本医学史
4	第2章 現代の医学
5	第2章 医療制度
6	第3章 医療倫理
7	定期試験
8	解答解説

科 目	関係法規	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	原 島 基	教員区分	一般教員

教 科 書	「関係法規 第7版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参 考 書	特になし
成績評価	定期試験
留意事項	法律は毎年改正されます。過去資料の使用には十分注意すること。 進行状況により、シラバスの内容が変更されることもあります。 適宜プリントを配布する為、教科書と共に持参すること。

科目の目標	医療従事者として必要な法律の知識を理解し、携われる業務の境界線を理解する。
授業概要	法の概要と、あはき師法、医療法、医師法を含む医療従事者に必要な法律の知識を理解する。 法は患者、施術者を守ることと理解する。 法の枠組みの中で、何が自分に出来ることなのかを考え理解を深める。

日程

回 数	授業内容
1	法律とは・免許と試験・業務
2	届出(開設届け・出張届等)
3	罰則(あはき師法の罰則・医師法の罰則・医業類似行為等)
4	関係法規(医療法・医師法・薬機法等)
5	関係法規(衛生関係法規・社会福祉関係法規・社会保険関係法規等)
6	まとめ
7	定期試験
8	解答解説

科 目	経絡経穴概論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	内藤 玄吾	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「ツボがある本当の意味」栗原誠 著 (BABジャパン) 「針灸学〔経穴編〕」天津中医薬大学 編 (東洋学術出版社) 「針灸経穴辞典」天津中医薬大学 編 (東洋学術出版社) 「経穴主治症総覧」池田政一 編著 (医道の日本社) 「カラー版 経穴マップ 第2版」王曉明 著 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験が60点に満たない者は再試験とする。
留意事項	授業内だけで覚えられる量では無いので、自宅での学習に努めること。

科目の目標	経絡経穴についての基礎的知識（経絡名・経穴名・取穴部位）を理解習得し、鍼灸師としての基礎を作る。
授業概要	講義とアクティブラーニングの形式で実施する。講義では経穴名の由来と主治について、アクティブラーニングでは絵を書き、ビジュアルで経絡の流れと取穴法を記憶整理する。

日程

回 数	授業内容
1	2章 十四経脈とその経穴 足の太陽膀胱経①
2	2章 十四経脈とその経穴 足の太陽膀胱経②
3	2章 十四経脈とその経穴 足の太陽膀胱経③
4	2章 十四経脈とその経穴 足の少陰腎経①
5	2章 十四経脈とその経穴 足の少陰腎経②
6	2章 十四経脈とその経穴 手の厥陰心包経・手の少陽三焦経①
7	2章 十四経脈とその経穴 手の少陽三焦経②
8	2章 十四経脈とその経穴 手の少陽三焦経③
9	2章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆経 ①
10	2章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆経 ②
11	2章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆経 ③
12	2章 十四経脈とその経穴 足の厥陰肝経 ①
13	2章 十四経脈とその経穴 足の厥陰肝経 ②
14	まとめ
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	東洋医学概論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	飯塚 聡	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参 考 書	適宜紹介する。
成績評価	定期試験
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。質問は授業終了時までには必ず行い、疑問を持ち越さないこと。

科目の目標	東洋医学についての基礎的な知識を学び、専門用語を理解する。 東洋医学的な人体の見方や病理を理解し、国家試験や臨床に応用する力をつける。
授業概要	東洋医学の基礎知識や成立の背景、人体の見方やその生理・病理を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	前期の復習
2	第2章 生理と病理：五臓の相互関係①
3	第2章 生理と病理：五臓の相互関係②、
4	第2章 生理と病理：五臓の相互関係③
5	第2章 生理と病理：六腑の協調関係
6	第2章 生理と病理：全身の気機
7	第2章 生理と病理：経絡
8	第2章 生理と病理：病因病機①
9	第2章 生理と病理：病因病機②
10	第2章 生理と病理：五臓の相互関係、経絡、病因病機の復習
11	第4章 四診：望診・聞診
12	第4章 四診：問診・切診
13	第5章 弁証論治：弁証①
14	第5章 弁証論治：弁証②、後期の復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床鍼灸学Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	適宜配布物を用意いたします。
参考書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「鍼灸臨床の科学」西條一止／熊澤孝朗 監修 (医歯薬出版) 「自律神経機能検査 第5版」日本自律神経学会 編 (文光堂)
成績評価	期末試験の点数と授業内の小テストより評価(配点：期末試験80%、小テスト20%)
留意事項	実験機材の取り扱いと、軽度の身体負荷があるので体調変化に注意して下さい。

科目の目標	生体の刺激に対する自律神経反応を測定機器の取り扱いを通じて理解する。
授業概要	身体に種々の刺激が加わった際に生じる活動の変化の有無を実験機材から得られるデータに対して血液・免疫・循環系、体温・代謝、神経系、内分泌系の知識を用いて、解釈・考察する事を学びます。必要に応じて、生理学の学習範囲の復習を行います。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション
2	生理学分野の学習①
3	生理学分野の学習②
4	自律神経機能の観察方法の概要
5	生理学分野の学習③
6	自律神経の機能の観察(基礎)
7	生理学分野の学習④
8	自律神経の機能・生体反応の測定
9	生理学分野の学習⑤
10	自律神経の機能・生体反応の測定
11	生理学分野の学習⑥
12	自律神経の機能・生体反応の測定
13	生理学分野の学習⑦
14	自律神経の機能・生体反応の測定
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	臨床経穴実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	割田 萌	教員区分	実務教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「プロメテウス 解剖学アトラス 総論/運動器系」(医学書院) 「カラー版 経穴マップ 第2版」王曉明 著 (医歯薬出版)
成績評価	実技試験、出席、授業態度を総合的に評価する。
留意事項	必ず経穴名と部位の予習をして授業に臨み、復習をすること。 取穴し易い服装を準備すること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること (ふさわしくない身だしなみ－4点)。 遅刻・早退・欠席をしないこと (欠席－6点、遅刻・早退－2点)。

科目の目標	経絡の流注を理解し、経穴の取穴法を習得する。 経穴の部位と局所解剖についても学習し習得する。
授業概要	経絡経穴概論で学習した経穴の取穴を行う。 担当教員により局所解剖と取穴の説明、デモンストレーション、各自で触擦・取穴の順で行う。

実務経験	往診にて臨床を行う。
実務経験と授業の関連	臨床で得た触察の技術を授業に還元する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、手の太陰肺経
2	手の陽明大腸経
3	任脈
4	足の陽明胃経
5	足の太陰脾経
6	手の少陰心経・手の太陽小腸経
7	督脈
8	足の太陽膀胱経①
9	足の太陽膀胱経②
10	足の少陰腎経

1 1	手の厥陰心包経
1 2	手の少陽三焦経
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	実技試験フィードバック
1 6	総復習

科 目	鍼基礎実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	北園 実鈴	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技 第2版<基礎編>」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	実技試験・小テスト・実習態度・出席状況を総合して評価する。
留意事項	実習内容について毎日反復練習に努めること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること(ふさわしくない身だしなみ－4点)。 基礎実習が将来の臨床へとつながるので、遅刻・早退・欠席をしないよう体調をしっかりと管理すること(欠席－6点, 遅刻・早退－2点)。

科目の目標	刺鍼の基本および身体各部への安全な刺鍼法を習得する。
授業概要	刺鍼に必要な基礎知識を学習する。衛生管理(用具・手指などの清潔保持、消毒)、治療過誤の概要を学び安全な刺鍼法を十分に理解する。 局所解剖所見を踏まえ全身の身体各部に安全に刺入できる知識と技術(長さ、太さの異なる鍼を使用)を習得する。

実務経験	鍼灸接骨院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った刺鍼技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、大腿部(各自)直刺(銀鍼・ステンレス鍼)
2	身体各部の刺鍼(対人): 大腿 直刺
3	身体各部の刺鍼(対人): 大腿 斜刺
4	身体各部の触診(対人): 腰部・背部のランドマークの確認、タオルワーク
5	身体各部の刺鍼(対人): 腰部 直刺
6	身体各部の刺鍼(対人): 腰部 斜刺
7	十七手技①
8	十七手技②
9	身体各部の刺鍼(対人): 下腿
10	身体各部の刺鍼(対人): 前腕

1 1	身体各部の刺激（対人）：後頸部
1 2	身体各部の刺激（対人）：腰部
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	フィードバック、総合刺激
1 6	総合刺激

科 目	灸基礎実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	後期
教 員 名	前窪 美香	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技＜基礎編＞ 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験, 課題提出, 出席状況による総合評価.
留意事項	火の取り扱いに十分注意し, 自宅でも反復練習に努めること. 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること (ふさわしくない身だしなみ－4点). 遅刻・欠席をしないこと (欠席－6点, 遅刻－2点). 対人施灸では, 感受性の差異に留意し, 参加にあたっては体調管理に努めること.

科目の目標	灸に関する基礎的な知識, 技術を習得し, 人体施灸 (透熱灸) を安全かつ確実に行える技術・態度を身に付ける.
授業概要	灸の基礎知識を学び, 一定の技量を習得し, 学生同士での人体施灸を行う.

実務経験	鍼灸接骨院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	授業の概要と進め方, 諸注意, 灸基礎実習Ⅰの復習
2	灸の基礎知識, 施灸練習 (紙上施灸, 竹上への艾炷作成) ①
3	灸の基礎知識, 施灸練習 (紙上施灸, 竹上への艾炷作成) ②
4	灸の基礎知識, 施灸練習 (紙上施灸, 竹上への艾炷作成) ③
5	灸の基礎知識, 施灸練習 (紙上施灸, 竹上への艾炷作成) ④
6	灸の基礎知識, 施灸練習, 消毒操作, 人体施灸 (自身への施灸) ①
7	灸の基礎知識, 施灸練習, 人体施灸 (自身への施灸) ②
8	灸の基礎知識, 施灸練習, 人体施灸 (自身への施灸) ③
9	灸の基礎知識, 施灸練習, 人体施灸 (対人施灸) ①
10	灸の基礎知識, 施灸練習, 人体施灸 (対人施灸) ②

1 1	灸の基礎知識，施灸練習，人体施灸（対人施灸）③
1 2	灸の基礎知識，施灸練習，人体施灸（対人施灸）④
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	試験フィードバック
1 6	総合復習

科 目	トレーニング実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	後期
教 員 名	野呂 賢二	教員区分	実務教員

教 科 書	適宜資料を配布
参 考 書	授業中適宜紹介
成績評価	定期試験、出席、授業態度で評価
留意事項	復習を行うこと。 遅刻・欠席をしないこと（欠席－6点、遅刻－2点）。

科目の目標	トレーニングの基本理論を学習することで健康維持・増進・予防の知識の理解が深まり安心・安全に受療できる医療人を目指す。
授業概要	運動を通じて身体の基本的構造の理解を学習する。

実務経験	アスレティックトレーナーとして様々なスポーツ現場に関わる。
実務経験と授業の関連	スポーツ現場で必要な知識を伝えていく。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション
2	トレーニング理論①
3	トレーニング理論②
4	パートナーストレッチング
5	筋力トレーニング
6	スピードトレーニング
7	敏捷トレーニング
8	身体評価①
9	身体評価②
1 0	グループワーク①

1 1	グループワーク②
1 2	グループワーク③
1 3	グループワーク④
1 4	実技試験
1 5	実技試験の解答と解説
1 6	総復習

科 目	人間学Ⅲ (心理学・コミュニケーション)	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	吉川 竹明	教員区分	一般教員

教 科 書	指定なし（毎回の授業で授業プリント冊子を配布し、利用する）
参 考 書	適宜、授業の進行に合わせ紹介する。
成績評価	定期試験
留意事項	特になし

科目の目標	医療コミュニケーションに求められる要素、コミュニケーションの重要性を理解する。
授業概要	交流分析とコミュニケーション心理学を軸に、他者とのコミュニケーションをいかに図り、また自己をどう理解するかを展開する。日本語には、自己が語った言葉が、その意味や背景を含め、一対一では成立する根拠がない。そこで、バーバルとノンバーバルのコミュニケーションを活用し、他者理解と自己理解を目指す。

日程

回 数	授 業 内 容	
1	心理学概論 1	心理学とは何か 1
2	心理学概論 2	心理学とは何か 2
3	交流分析 1	エゴグラムとOKグラム
4	交流分析 2	自我の5つの要素
5	交流分析 3	相補的交流
6	交流分析 4	交差的交流と裏面的交流
7	コミュニケーション心理学 1	コミュニケーションとは何か・知覚プロセス
8	コミュニケーション心理学 2	自己と他者・オーラルコミュニケーション
9	コミュニケーション心理学 3	ノンバーバルコミュニケーション
10	コミュニケーション心理学 4	自己開示と自己呈示
11	コミュニケーション心理学 5	ラポールの構築・医療者としてのありかた
12	医療コミュニケーション論 1	医療現場で「尋ねる」「聞く」とは
13	医療コミュニケーション論 2	医療現場で「話す」「伝える」とは
14	まとめ	
15	定期試験	
16	行動心理学 しぐさと心理の関係	

科 目	解剖学Ⅵ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教 員 名	島田 和幸	教員区分	一般教員

教 科 書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参 考 書	「解剖学カラーアトラス」横地千仞 著(医学書院)、その他必要に応じてプリントを配布。
成績評価	小テスト2割、定期試験8割による総合評価。 定期試験60点が未満の者、総合評価が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	予習・復習には十分時間をかけること。

科目の目標	人体の地図構造についてよく理解する。
授業概要	教科書に従って行なう。

日程

回 数	授業内容
1	人体の構成
2	小テスト、四肢の脈管と神経1
3	四肢の脈管と神経2
4	小テスト、四肢の脈管と神経3
5	四肢の脈管と神経4
6	小テスト、四肢の脈管と神経5
7	呼吸器系1
8	小テスト、呼吸器系2・消化器系1
9	消化器系2
10	消化器系3
11	泌尿器系・生殖器系1
12	泌尿器系・生殖器系2
13	泌尿器系・生殖器系3
14	内分泌系
15	定期試験
16	授業総括

科 目	運動学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教 員 名	山内 清敬	教員区分	一般教員

教 科 書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「リハビリテーション医学 第4版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参 考 書	「基礎運動学 第6版」中村隆一・齋藤宏・長崎浩 著(医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	臨床でも大切な内容であり、また範囲が広い内容であるため、予習・復習に努めること。

科目の目標	筋・運動学・身体各部の機能について理解し、臨床に必要な運動学の知識を理解する。
授業概要	筋・運動学・身体各部の機能について重要なところを解説し、鍼灸師として応用できるよう授業する。

日程

回 数	授業内容
1	運動学ガイダンス、骨格筋の構造と働き、筋の収縮の仕組み、関節と運動の力学
2	筋のエネルギー供給の仕組み、心筋と平滑筋
3	骨格筋の神経支配
4	運動の調節 1
5	運動の調節 2
6	錐体路系・錐体外路系・発声と言語
7	姿勢とその異常、身体各部の機能 1 (脊柱・体幹の機能)
8	身体各部の機能 2 (肩甲帯・肩の機能)
9	身体各部の機能 3 (肘と前腕の機能)
1 0	身体各部の機能 4 (手と手指の機能)
1 1	身体各部の機能 5 (骨盤と股関節の機能)
1 2	身体各部の機能 6 (膝関節の機能)
1 3	身体各部の機能 7 (足の機能)
1 4	身体各部の機能 8 (正常歩行と異常歩行・顔面および頭部の筋)
1 5	定期試験
1 6	定期試験の解答と解説

科 目	病理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教 科 書	「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「はじめの一步のイラスト病理学」 深山正久 編 (羊土社)
成績評価	定期試験
留意事項	基本となる生理学の復習をしてください。

科目の目標	病理の基礎を学び、臨床医学各論で学ぶ疾病の病態が、どのような機序になっているか理解する。
授業概要	教科書に沿う様な形で、重要なところをわかりやすく解説・講義する。

日程

回 数	授業内容
1	病理概論・病因 1
2	病因 2
3	循環障害 1
4	循環傷害 2
5	退行性病変 1
6	退行性病変 2、進行性病変 1
7	進行性病変 2
8	炎症 1
9	炎症 2
1 0	腫瘍 1
1 1	腫瘍 2
1 2	免疫異常・アレルギー
1 3	先天性異常
1 4	まとめ
1 5	定期試験
1 6	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学総論Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	太田 和幸	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版社)
参考書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版社) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版社) 「写真で学ぶ整形外科テスト法」ジョセフJ・シブリアーノ著(医道の日本社) 「診察と手技がみえる」田邊政裕編集(メディックメディア)
成績評価	定期試験
留意事項	基礎となる解剖学、生理学の復習や鍼灸臨床評価実習と併せた学習を行ってください。

科目の目標	医療従事者として臨床に不可欠な診察法、検査法の基礎知識を身に付け、鍼灸臨床に応用できる能力を養う。またその知識を活用し患者の訴える症状から正しい鑑別診断ができることを目標とする。
授業概要	症状・所見から疾患の把握や診断に結び付けられるように、それぞれの特徴について講義する。

日程

回 数	授業内容
1	授業概要、第2章 診察の方法
2	第3章 生命徴候の診察1
3	第3章 生命徴候の診察2
4	第4章 全身の診察1
5	第4章 全身の診察2
6	第4章 全身の診察3
7	第5章 局所の診察1
8	第5章 局所の診察2
9	第5章 局所の診察3
10	第5章 局所の診察4
11	第6章 神経系の診察1
12	第6章 神経系の診察2
13	第6章 神経系の診察3
14	総まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	前窪 美香	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	定期試験の評価を8割、授業内に行う小テストの評価を2割とし総合評価を行う。 定期試験が60点未満の者、総合評価が60点未満の者は再試験とする。
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。

科目の目標	整形外科疾患の基本的な知識を習得する。
授業概要	整形疾患の病態を把握し、鍼灸治療の適応・不適応の鑑別診断を行えることを目標とし、実際の臨床に適応できるようにする。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション、総論
2	外傷①
3	外傷②
4	形態異常
5	脊損
6	筋腱疾患
7	関節疾患①
8	関節疾患②
9	関節疾患③
10	骨代謝疾患
11	脊椎疾患①
12	脊椎疾患②
13	脊椎疾患③
14	その他の整形疾患
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「病気が見える」シリーズ(メディックメディア) 必要な場合、適宜紹介する
成績評価	定期試験により評価
留意事項	病態理解を目標とする為、漫然と単語を暗記する作業に陥らないように注意する事。

科目の目標	臨床医学各論の分野における、感染症、循環器疾患、血液造血器疾患、呼吸器疾患について疾患名称とその病態把握を目指す。
授業概要	配布物を中心に、各疾患についての概念、症状、診断、治療、経過予後を学習する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、感染症①(総論、細菌感染症①)
2	感染症②(細菌感染症②、ウイルス感染症①)
3	感染症③(ウイルス感染症②、性感染症)
4	循環器疾患①(心臓疾患①)
5	循環器疾患②(心臓疾患②)
6	循環器疾患③(冠動脈疾患、動脈疾患、血圧異常)
7	血液・造血器疾患①(赤血球疾患①)
8	血液・造血器疾患②(赤血球疾患②)
9	血液・造血器疾患③(白血球疾患、リンパ網内系疾患)
10	血液・造血器疾患④(出血性素因)
11	呼吸器疾患①(感染性呼吸器疾患)
12	呼吸器疾患②(閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患)
13	呼吸器疾患③(その他の呼吸器疾患)
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	経絡経穴概論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教 員 名	内藤 玄吾	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	ツボがある本当の意味 (BABジャパン) 針灸学〔経穴編〕 (東洋学術出版社) 経穴主治症総覧 (医道の日本社) 臨床経穴ポケットガイド (医歯薬出版)
成績評価	小テスト3割, 定期試験7割による総合評価。 総合評価, または定期試験が60点に満たない者は再試験とする。
留意事項	国家試験に頻出するため, 経穴名, 取穴部位, 要穴表を確実に覚えること。 授業中の暗記時間を無駄にせず, 自宅での反復学習に努めること。

科目の目標	経絡経穴についての基礎的知識(経絡名・経穴名・取穴部位)を理解習得する。 要穴について(五腧穴, 五行穴, 八会穴, 四総穴, 下合穴, 等)理解習得する。 奇経八脈・奇穴の基礎的知識(経絡名・経穴名・取穴部位)を理解習得する。
授業概要	各経絡経穴・要穴・奇経八脈・奇穴の名称と取穴部位を学び, 理解する。

日程

回 数	授 業 内 容
1	2 章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆経 ①
2	2 章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆経 ②
3	2 章 十四経脈とその経穴 足の厥陰肝経
4	要 穴 ①
5	要 穴 ②
6	奇経八脈 ①
7	奇経八脈 ②
8	奇 穴 ①
9	奇 穴 ②
1 0	顔面部・頭部の経絡経穴
1 1	上肢の経絡経穴
1 2	下肢の経絡経穴
1 3	総復習①
1 4	総復習②
1 5	定期試験
1 6	解説・解答

科 目	東洋医学臨床論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教 員 名	石田 大弥	教員区分	一般教員

教 科 書	「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参 考 書	プリントを配布
成績評価	定期試験
留意事項	第1～4回の授業は「新版 経絡経穴概論 第2版」をお持ちください。

科目の目標	各愁訴・疾患における東洋医学的な病因病機を理解し、鍼灸処方を組み立てられること
授業概要	東洋医学的な病因病機・処方を座学形式で学ぶ

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション/穴性学の基礎1
2	穴性学の基礎2
3	穴性学の基礎3
4	穴性学の基礎4
5	頭痛
6	顔面痛/歯痛
7	顔面麻痺
8	鼻閉・鼻汁
9	眼精疲労/脱毛症/めまい
10	耳鳴り・難聴
11	咳嗽/喘息
12	胸痛/腹痛
13	悪心と嘔吐
14	処方練習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	現代医学臨床論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	山内 清敬	教員区分	一般教員

教科書	「東洋医学臨床論 くはりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ(文光堂)
成績評価	定期試験
留意事項	基本となる解剖(筋・支配神経)や生理の復習、教科書に書いてあることはアウトプットできるようにして下さい。

科目の目標	症状から疾患を鑑別し治療に結びつける能力を養い、特に注意を要する疾患に対しリスク管理をできるようにする。また、適応症と鑑別が行えることを目標とする。さらに各疾患について治療のみならず的確な生活指導を実施でき、臨床の幅を広げることを目標とする。
授業概要	症状・疾患ごとに重要なところを解説し、臨床で実践できるように講義する。

日程

回数	授業内容
1	臨床論ガイダンス、第2章 治療各論 19. 肩こり
2	第2章 治療各論 20. 頸肩腕痛
3	第2章 治療各論 21. 肩関節痛
4	第2章 治療各論 22. 上肢痛
5	第2章 治療各論 23. 腰下肢痛
6	第2章 治療各論 24. 膝痛
7	第2章 治療各論 スポーツ医学、外傷・障害
8	第2章 治療各論 25. 運動麻痺
9	第2章 治療各論 1. 頭痛
10	第2章 治療各論 2. 顔面痛、4. 歯痛
11	第2章 治療各論 3. 顔面麻痺
12	第2章 治療各論 8. めまい
13	第2章 治療各論 9. 耳鳴りと難聴
14	第2章 治療各論 5. 眼精疲労
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床評価実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	実務教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「リハビリテーション医学 第4版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「診断と手技がみえる①」 (メディックメディア) 「病気がみえるシリーズ」 (メディックメディア)
成績評価	実技試験と出席状況等の総合評価。 実技試験が60点未満の者、総合評価が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	授業に関連する項目の予習・復習 (解剖学・生理学・臨床医学総論・リハビリテーション医学) に努めること。 シラバス・資料を参照し、授業がスムーズに行える服装で臨むこと。

科目の目標	鍼灸臨床の場で用いる事が出来る所見や評価項目を習得する。 所見や評価項目を用い、患者の病態や経過を推察する能力を身につける。
授業概要	所見や評価項目の意義や方法を資料や教員のデモンストレーションにて理解し、学生同士で練習を行う。 各所見や評価項目毎に知識を整理する。

実務経験	付属鍼灸院で臨床に携わる
実務経験と授業の関連	臨床で行っている評価方法を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、Ⅰ－① 感覚検査①
2	Ⅰ－① 感覚検査②
3	Ⅰ－① 反射検査①
4	Ⅰ－① 反射検査②
5	Ⅰ－① 反射検査③
6	Ⅰ－② 脳神経の検査①
7	Ⅰ－② 脳神経の検査②
8	Ⅰ－② 脳神経の検査③、髄膜刺激症状検査
9	Ⅰ－③ 徒手筋力検査①
10	Ⅰ－③ 徒手筋力検査②
11	Ⅰ－③ 徒手筋力検査③

1 2	総復習
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	実技試験フィードバックと評価
1 6	検査と評価のまとめ

科 目	臨床経穴実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教 員 名	北園 実鈴	教員区分	実務教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」(医学書院)
成績評価	実技試験、出席点(1回欠席-6点・遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。 実技試験が60点未満の者、総合評価が60点未満の者は再試験の評価とする。
留意事項	必ず予習をして授業に臨み、復習をすること。 十四経については、所属の経穴名と部位を復習しておくこと。 シラバスを参照し、取穴し易い服装で臨むこと。

科目の目標	経絡の流注を理解し、経穴の取穴法を習得する。 経穴の部位と局所解剖についても学習し習得する。
授業概要	四肢の経穴を中心とした取穴を行う。 担当教員により局所解剖と取穴の説明、デモンストレーション、各自で触擦・取穴の順で行う。

実務経験	鍼灸接骨院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で使用している取穴方法を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション
2	手の少陽三焦経
3	足の少陽胆経 1
4	足の少陽胆経 2
5	足の厥陰肝経 1
6	足の厥陰肝経 2
7	要穴 1
8	要穴 2
9	要穴 3
10	要穴 4

1 1	要穴 5
1 2	要穴 6
1 3	要穴 7
1 4	実技試験
1 5	実技試験フィードバック
1 6	総復習

科 目	触診触察実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	浅野 貴之	教員区分	実務教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 <はりきゅう編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系」(医学書院)
成績評価	実技試験、出席点(1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。 実技試験点が60点未満の者、総合点が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	・体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも触察できるようにすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・触察部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・触察部位の構造(骨、筋、靱帯、神経、血管)を必ず予習しておくこと。

科目の目標	「現代医学臨床論Ⅰ」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織(筋・神経・関節など)を中心に触察および患者を想定した、触診(触り方)を習得する。さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の触察・触診見本を提示し、感触を経験した後に、各ペアで触察・触診をおこなう。

実務経験	鍼灸院を開業
実務経験と授業の関連	臨床で培った触診の技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・基本的な触診方法
2	肩こりに関わる組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
3	頸肩腕痛に関わる組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
4	肩関節痛（スポーツ障害を含む）に関わる組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
5	上肢痛（スポーツ障害を含む）に関わる組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
6	陽下肢痛（スポーツ障害を含む）に関わる組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
7	膝痛（スポーツ障害を含む）に関わる組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
8	運動麻痺（末梢神経障害）に関わる組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
9	頭痛に関わる組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
10	顔面痛・歯痛に関わる組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
11	顔面麻痺に関わる組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
12	めまい・耳鳴り・難聴に関わる組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
13	眼精疲労に関わる組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	鍼灸応用実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	浅野 貴之	教員区分	実務教員

教 科 書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 くはりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参 考 書	「プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系」(医学書院)
成績評価	実技試験、出席点(1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。
留意事項	・体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも刺鍼できるようにすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・刺鍼部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・刺鍼部位の構造(骨、筋、靱帯、神経、血管)を必ず予習してくること。

科目の目標	「現代医学臨床論Ⅰ」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織(筋・神経・関節など)を中心に刺鍼方法を習得する。 さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の刺鍼見本を提示し、鍼尖の感触を経験した後に、各ペアで刺鍼練習をおこなう。

実務経験	鍼灸院を開業
実務経験と授業の関連	臨床で培った鍼灸の技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・基本的な触診方法
2	肩こりに関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
3	頸肩腕痛に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
4	肩関節痛（スポーツ障害を含む）に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
5	上肢痛（スポーツ障害を含む）に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
6	陽下肢痛（スポーツ障害を含む）に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
7	膝痛（スポーツ障害を含む）に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
8	運動麻痺（末梢神経障害）に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
9	頭痛に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
10	顔面痛・歯痛に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
11	顔面麻痺に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
12	めまい・耳鳴り・難聴に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
13	眼精疲労に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	
		履修区分	
		単 位 数	2
		時 間 数	90
		履修年次	2年次
		実施学期	前・後期
教 員 名	鍼灸学科教員	教員区分	実務教員

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし
成績評価	評価表に基づく
留意事項	臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握、理解し、適切な行動、患者応対ができる
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識、技術を学習する 臨床実習上で必要な各種の動作を学ぶ

実務経験	新宿医療専門学校付属左門町鍼灸院にて勤務
実務経験と授業の関連	臨床現場で経験した知識、技術を授業に取り入れる

日程【前期】

回 数	授業内容
1	・オリエンテーション ・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い ・接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握 ・鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、 ・抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科 目	人間学Ⅱ	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	渡邊 智寛	教員区分	一般教員

教科書	教科書の指定はない。配布プリントを使用する。
参考書	参考書の指定はない。授業中に適宜参考文献を紹介する。
成績評価	定期試験にて評価する
留意事項	時事問題を取り上げることが多い 「授業内容」に記載されているトピックに関わるニュースに普段から触れていることが望ましい

科目の目標	「行為の善悪」の基準について、その根拠を求め、合理的な判断を得るのが倫理学である。 この授業では、医療に関わる倫理的諸問題について、何が問題とされているのか、なぜ問題とされているのかを検討する。 医療に関わる倫理的諸問題は、医療従事者や生命科学研究者だけでなく、すべての者に否応なしに関係してきて解決を迫る。関連情報の正確な理解に基づき、さまざまな考え方や立場を理解しつつ自ら主体的に考える姿勢を養成する。
授業概要	生命倫理学全体を俯瞰的に概括したのち、各論を個別に検証する。それぞれの問題の構造を分析し、現状を理解する。さらに、問題解決への道筋についても考える

日程

回 数	授業内容
1	§ 1. 生命倫理学とは何か——倫理学、生命倫理的問題、医療専門職と社会
2	§ 2. 生命倫理学、誕生の背景——1) 人体実験、2) 医療技術、3) 医師患者関係
3	§ 3-1. 人工妊娠中絶①——日本の現状、歴史的経緯、国際比較、関係法規
4	§ 3-2. 人工妊娠中絶②——生存権と選択権、優生思想と新優生思想、中絶と社会
5	§ 4-1. 生殖補助医療①——人工授精、体外受精、代理出産、望む子を得ること
6	§ 4-2. 生殖補助医療②——選択的出産、受精卵を用いた研究、技術が変える親子関係
7	§ 5-1. 遺伝子操作①——子をデザインする、遺伝子エンハンスメント、遺伝子を買う
8	§ 5-2. 遺伝子操作②——遺伝子組み換え作物・動物、食を通じた世界支配
9	§ 6-1. 脳死と臓器移植①——パーソン論、脳死と社会的死
10	§ 6-2. 脳死と臓器移植②——判定基準の問題、臓器移植の新要件、脳死は死か

1 1	§ 7-1. 安楽死・尊厳死・治療停止①—安楽死・尊厳死とは、事例、安楽死許容条件
1 2	§ 7-2. 安楽死・尊厳死・治療停止②——リビング・ウィルと DNAR、死の迎え方と社会
1 3	§ 8. 自律尊重・自己決定——社会の利益と個人の権利、自己決定権とその限界
1 4	§ 9. ケアという視点——ケアとキュア、社会と弱者の関わり
1 5	定期試験
1 6	定期試験の解答と解説、授業総括

科 目	臨床医学総論Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	後期
教 員 名	太田 和幸	教員区分	一般教員

教 科 書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「写真で学ぶ整形外科テスト法」ジョセフ J・シプリアーノ 著 (医道の日本社) 「診察と手技がみえる」田邊政裕 編集 (メディックメディア)
成績評価	定期試験
留意事項	基礎となる解剖学、生理学の復習や東洋医学臨床論と併せた学習を行ってください。

科目の目標	医療従事者として臨床に不可欠な診察法を身に付け、鍼灸臨床に応用できる能力を養う。またその知識を活用し患者の訴える症状から正しい鑑別診断ができることを目標とする。
授業概要	患者が訴える症状の原因疾患は何か、病態生理を把握しながら学習する。

日程

回 数	授業内容
1	第8章 その他の診察
2	第7章 運動機能検査 1
3	第7章 運動機能検査 2
4	第9章 臨床検査法 1
5	第9章 臨床検査法 2
6	第9章 臨床検査法 3
7	第11章 治療学
8	中間まとめ 確認試験
9	頭痛・顔面痛・歯痛・眼精疲労・鼻閉鼻汁・めまい・耳鳴り・難聴
10	咳痰・息切れ・動悸・胸痛・腹痛・便秘・下痢・月経異常・不正性器出血
11	排尿障害・乏尿無尿・多尿・浮腫・肩こり・頸肩腕痛・肩関節痛・上肢痛
12	腰下肢痛・関節痛・運動麻痺・食欲不振・肥満・やせ・発熱・のぼせ冷え
13	不眠・疲労倦怠・発疹・ショック・出血傾向・易感染症・貧血・眼振
14	口渇・嘔声・嚥下困難・血痰咯血・胸水・悪心嘔吐・吐血下血・意識障害
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	山 田 智	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「なるほどなっとく内科学」浅野嘉延 編集(南山堂) 「病気が見える シリーズ」(メディックメディア) 「標準生理学 第8版」小澤清司・福田康一郎 監修(医学書院) 「解剖学講義 第3版」伊藤隆 原著(南山堂)
成績評価	定期試験により評価します。
留意事項	各臓器(消化管、内分泌、代謝)の解剖学、生理学を復習してください。

科目の目標	解剖・生理を踏まえながら、代表的な疾患の病態生理の理解と把握、検査方法を学ぶ。
授業概要	配布資料と口述、画像や模式図などを用いて解説していきます。

日程

回 数	授業内容
1	消化管疾患①：口腔疾患、食道疾患
2	消化管疾患②：胃・十二指腸疾患 1
3	消化管疾患③：胃・十二指腸疾患 2
4	消化管疾患④：腸疾患 1
5	消化管疾患⑤：腸疾患 2、腹膜疾患
6	肝・胆・膵疾患①：肝臓疾患 1
7	肝・胆・膵疾患②：肝臓疾患 2
8	肝・胆・膵疾患③：胆道疾患
9	肝・胆・膵疾患④：膵臓疾患
10	内分泌疾患①：下垂体疾患、甲状腺疾患
11	内分泌疾患②：副腎疾患
12	代謝・栄養疾患①：糖代謝、脂質代謝
13	代謝・栄養疾患②：尿酸代謝、その他の代謝異常
14	総まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅳ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	後期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教 科 書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「病気がみえる Vol.7 脳・神経」(メディックメディア) 「全部見える 脳・神経疾患」服部光男 監修 (成美堂出版) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	解剖学・生理学(免疫系、循環系、神経系、筋・運動系など)の基礎知識について復習し、不得意な領域をなるべく少なくしておく事。 病理学概論・臨床医学総論・臨床評価実習の範囲で扱う専門用語も同様に必要です。

科目の目標	神経系疾患の病態生理を把握し、症状や検査結果が類似する疾患を鑑別できる視点を養う事を旨とする。
授業概要	神経系の構造・機能の知識に基づき、各神経系疾患の概念(病理や疫学上の特徴)・症状(自覚症状・他覚所見など)・診断(検査方法・検査結果など)・治療(薬物投与や手術などの種類など)・経過予後(生命予後や後遺症の有無など)を学習する。

日程

回 数	授業内容
1	脳血管疾患①：脳循環の解剖・生理、脳梗塞(脳血栓/脳塞栓)、一過性脳虚血発作
2	脳血管疾患②：脳出血、クモ膜下出血 感染性疾患：髄膜炎(ウイルス性髄膜炎(ポリオなど)、細菌性・結核性・真菌性髄膜炎)
3	脳・脊髄腫瘍①：脳腫瘍、神経膠腫、髄膜腫、転移性脳腫瘍
4	脳・脊髄腫瘍②：下垂体腺腫、神経鞘腫、脊髄腫瘍
5	基底核変性疾患：パーキンソン病、ハンチントン舞踏病、脳性小児麻痺、ウィルソン病
6	その他変性疾患：脊髄小脳変性症、脊髄空洞症、進行性核上性麻痺、パーキンソニズム
7	認知症性疾患：認知症(アルツハイマー病およびアルツハイマー型老年認知症、 脳血管型認知症(多発脳梗塞型認知症)、ピック病、一般身体疾患に伴う認知症)
8	アレルギー性の神経および神経筋接合部での疾患： 重症筋無力症、ランバート・イートン症候群、ギラン・バレー症候群、多発性硬化症、
9	筋疾患：進行性筋ジストロフィー、筋強直性筋ジストロフィー
10	運動ニューロン疾患：筋萎縮性側索硬化症、シャルコー・マリー・トゥース病

1 1	末梢神経障害：総論、圧迫性・絞扼性ニューロパシー、ベル麻痺、ラムゼーハント症候群
1 2	神経痛：三叉神経痛、肋間神経痛、坐骨神経痛、後頭神経痛
1 3	機能性疾患：緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛
1 4	まとめ、試験の概要説明
1 5	定期試験
1 6	解答と解説

科 目	リハビリテーション医学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2 学年
		実施学期	後期
教 員 名	前窪 美香	教員区分	一般教員

教科書	「リハビリテーション医学 第4版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	小テスト2割、定期試験8割の総合評価で6割以上。かつ期末試験で60点以上。
留意事項	臨床評価実習、臨床医学各論と併せた学習を行い、予習・復習に勤しむこと。

科目の目標	リハビリテーションの概念と各疾患に対する治療方法を理解する
授業概要	リハビリテーション医学について正しい知識を持ち、社会の変化や生活の価値観の変化に応じて進歩するリハビリテーションに対応できるよう学習する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、Aリハビリテーションと障害
2	Bリハビリテーション医学と医療
3	C障害の評価①
4	C障害の評価②
5	C障害の評価③
6	D医学的リハビリテーション (理学療法)
7	D医学的リハビリテーション (作業療法、言語聴覚療法)
8	D医学的リハビリテーション (補装具療法、リハビリテーション看護、ソーシャルワーク)
9	各疾患のリハビリテーション (A脳卒中)
10	各疾患のリハビリテーション (B脊髄損傷)
11	各疾患のリハビリテーション (C切断、D小児)
12	各疾患のリハビリテーション (E骨関節疾患、F関節リウマチ)
13	各疾患のリハビリテーション (G末梢神経障害、Hパーキンソン病)
14	各疾患のリハビリテーション (I呼吸器疾患、J心疾患)
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	東洋医学臨床論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	石田 大弥	教員区分	一般教員

教科書	「東洋医学臨床論くはりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	プリントを配布
成績評価	定期試験
留意事項	第13回の授業は「新版 東洋医学概論」をお持ちください。

科目の目標	各愁訴・疾患における東洋医学的な病因病機を理解し、鍼灸処方を組み立てられること。
授業概要	東洋医学的な病因病機・処方を座学形式で学ぶ

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション／便秘と下痢
2	月経異常
3	排尿障害／インポテンツ
4	肩こり／頸肩腕痛／肩関節痛
5	腰下肢痛
6	膝痛
7	運動麻痺
8	高血圧／低血圧
9	食欲不振/肥満
10	発熱／のぼせと冷え
11	不眠／疲労と倦怠感
12	発疹／小児の症状
13	古代刺法
14	処方練習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	現代医学臨床論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	山内 清敬	教員区分	一般教員

教科書	「東洋医学臨床論 くはりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」矢野 忠 編集(文光堂) 「病気がみえるシリーズ」(メディックメディア)
成績評価	授業内で行う小テストの成績を2割、期末試験の成績を8割の総合評価とする。 基本的に毎回、前回内容分の小テストを行う。総合評価60点未満の場合は再試験とする。 ただし、期末試験で60点未満の者も再試験とする。
留意事項	毎回、授業の復習を必ず行うこと。基本となる解剖(筋・支配神経)や生理の復習をはじめ、 解剖や生理が疾患に結びついていることを理解すること。

科目の目標	症状から疾患を鑑別し治療に結びつける能力を養い、特に注意を要する疾患に対しリスク管理をできるようにする。また、適応症と鑑別が行えることを目標とする。さらに各疾患について治療のみならず的確な生活指導を実施でき、臨床の幅を広げることを目標とする。
授業概要	症状・疾患ごとに重要なところを解説し、臨床で実践できるように講義する。

日程

回 数	授業内容
1	呼吸器系1(鼻閉・鼻汁)
2	呼吸器系2(咳嗽、喘息)
3	呼吸器系3(咳嗽、喘息続き)
4	疼痛(胸痛、腹痛)
5	婦人科系(月経異常)
6	泌尿器科系1(排尿障害)
7	泌尿器科系2(インポテンツ)
8	消化器系1(悪心・嘔吐、食欲不振、肥満)
9	消化器系2(便秘・下痢)
10	バイタル(高血圧症、低血圧症、発熱、のぼせと冷え)
11	不眠、疲労と倦怠
12	皮膚科系(脱毛症、痒み)
13	老年医学、小児の症状
14	復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床鍼灸学Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	演習
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	浅野 貴之・北園 実鈴	教員区分	一般教員

浅野 貴之

教 科 書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	「鍼灸学 基礎編」日中共同編集 (東洋学術出版社)
成績評価	定期試験にて評価する。 50点満点とし、30点未満の場合、再試験とする。 科目の評価は、北園先生の期末試験の得点との合算とする。
留意事項	毎時限、内容が完結するため欠席をしないこと。過去の東洋医学の講義の上に知識を組み上げていくため、過去の資料やノートを見直しておくこと。また、確認が必要であれば資料やノートを持って受講すること。

科目の目標	1. 臓腑弁証において、各臓腑の病証を書き出すことができる。 2. 臓腑弁証と病因論(「新版 東洋医学概論 第2章」にて学習済)を結びつけ、症状を推測できる。 3. サブテキスト内のA指定(最重要項目)を理解し、それを書き出すことができる。 4. 「新版 東洋医学概論」第2章～第4章の重要事項を結びつけて説明することができる。
授業概要	1. 授業はプリント(サブテキスト)を用い、PCにてプレゼンテーション形式で説明する。 2. 必要に応じて、板書しながら説明していく。 3. 過去に行われた講義と弁証との関連付けをしながら講義を進めていく。

北園 実鈴

教 科 書	特になし
参 考 書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版社) 「生理学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版社) 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版社)
成績評価	定期試験にて評価する。 50点満点とし、30点未満の場合、再試験とする。 科目の評価は、浅野先生の期末試験の得点との合算とする。
留意事項	各部位の構造と機能の予習を行なって授業に望むこと。

科目の目標	鍼灸臨床で遭遇しやすい整形外科疾患や内科疾患の病態と鍼灸治療について学ぶ。
授業概要	生殖器、肩、腰、などの局所解剖を理解する。 疾患の病態生理を学ぶことによって鍼灸治療の方法を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	東洋医学の捉え方① 臓腑学説と気血津液学説 (浅野)
2	婦人科疾患の病態と治療方針① (北園)
3	東洋医学の捉え方② 病因論 (浅野)
4	婦人科疾患の病態と治療方針② (北園)
5	東洋医学の捉え方③ 弁証論治、弁証の進め方 (浅野)
6	婦人科疾患の病態と治療方針③ (北園)
7	東洋医学の捉え方④ 八綱弁証 (浅野)
8	腰痛疾患の病態と鍼灸治療① (北園)
9	東洋医学の捉え方⑤ 気血津液弁証 (浅野)
10	腰痛疾患の病態と治療方針② (北園)
11	東洋医学の捉え方⑥ 臓腑弁証 (浅野)
12	上肢の疾患の病態と治療方針① (北園)
13	東洋医学の捉え方⑦ 臓腑兼病病証 (浅野)
14	上肢の疾患の病態と治療方針② (北園)
15	定期試験 (北園)
16	まとめ (浅野・北園)

科 目	社会鍼灸学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	「社会あはき学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	適宜紹介する
成績評価	定期試験による
留意事項	鍼灸師と社会との関係において問題意識を持つこと

科目の目標	鍼灸師の役割や倫理観を再確認するとともに現代社会の問題点も考えていく
授業概要	鍼灸師として知っておかなければならない歴史や問題点を学ぶとともに、現代を生きる鍼灸師として何が必要なのかを問題定義し、それを研究・発表する

日程

回 数	授業内容
1	鍼灸と社会①
2	鍼灸と社会②
3	鍼灸と社会③
4	鍼灸師を目指すものとして考えること①
5	鍼灸師を目指すものとして考えること②
6	鍼灸師を目指すものとして考えること③
7	鍼灸師を目指すものとして考えること④
8	鍼灸師と現代社会・医療との関わり①
9	鍼灸師と現代社会・医療との関わり②
10	鍼灸師と現代社会・医療との関わり③
11	鍼灸師と現代社会・医療との関わり④
12	これからの鍼灸①
13	これからの鍼灸②
14	これからの鍼灸③
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説 総説

科 目	臨床評価実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	下 山 隆 朗	教員区分	実務教員

教 科 書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「写真で学ぶ整形外科テスト法」ジョセフ J・シプリアーノ 著 (医道の日本社) 「標準整形外科学 第13版」中村利孝・松野丈夫 監修(医学書院)
成績評価	実技試験に欠席点(欠席ー6点、遅刻・早退ー2点)、授業態度(不適切な身だしなみー4点)を含めた評価とする。
留意事項	検査法は相手の身体に負荷や痛みを加えるものなので、真剣に取り組むこと。 解剖学・運動学・整形外科の基礎知識が必須のため、必ず復習をしておくこと。 部位に応じて、ハーフパンツなど動きやすい服装で臨むこと。

科目の目標	臨床の場において、鍼灸師が行う事が出来る検査や評価の方法を理解し、病態や状態を推測する能力を身につける。 身体各部位の診察・評価方法を習得し、適切に徒手検査が行えるようにする。
授業概要	検査と疾患の関係を理解しながら手技とともに臨床推論ができる技術と知識を習得する

実務経験	付属施術所で施術
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	足関節の診察・徒手検査・評価方法
2	膝関節①の診察・徒手検査・評価方法
3	膝関節②の診察・徒手検査・評価方法
4	膝関節③、股関節①の診察・徒手検査・評価方法
5	股関節②、仙腸関節①の診察・徒手検査・評価方法
6	仙腸関節②、腰部①の診察・徒手検査・評価方法
7	腰部②の診察・徒手検査・評価方法
8	手関節、肘関節の診察・徒手検査・評価方法
9	肩関節①の診察・徒手検査・評価方法
10	肩関節②、胸部①、頸部①の診察・徒手検査・評価方法

1 1	胸部②、頸部②の診察・徒手検査・評価方法
1 2	総合復習
1 3	実技試験①
1 4	実技試験②
1 5	試験のフィードバック
1 6	検査法のまとめ

科 目	触診触察実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	浅野 貴之	教員区分	実務教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 くはりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「プロメテウス解剖学 アトラス解剖学総論・運動器系」(医学書院)
成績評価	実技試験、出席点(1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。 実技試験点が60点未満の者、総合点が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	・体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも刺激できるようにすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・刺激部位の構造(骨、筋、靱帯、神経、血管)を必ず予習しておくこと。

科目の目標	「現代医学臨床論Ⅱ」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織(筋・神経・関節など)を中心に触察および診察、患者を想定した、触診(触り方)を習得する。さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の触察・触診見本を提示し、感触を経験した後に、各ペアで触察・触診をおこなう。

実務経験	鍼灸院を開業
実務経験と授業の関連	臨床で培った触診の技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・パルス機器(簡易版)操作方法
2	鼻閉・鼻汁に関わる診察および後頸部の触察(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
3	咳嗽・喘息に関わる診察および肩甲間部の触察(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
4	肋間神経痛に関わる診察および棘突起の触察(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
5	腹部の診察(打診・触診)および背部(脊柱起立筋)の反応点の触察(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
6	腹部の診察(聴診)および脊柱起立筋(腰部)の触察および触診(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)

7	腹部の触診（骨盤内臓）と八髎穴の触察および触診（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
8	排尿障害に関わる組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
9	インポテンツ関わる組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
10	血圧異常に関わる組織（総頸動脈）の触診（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
11	発熱・のぼせ・冷えに対する診察（自律神経の見方）（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
12	不眠・疲労・倦怠に関わる組織（後頭下筋群）の触察（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
13	老年医学に関わる組織（大関節）の診察および触擦（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	灸応用実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	内藤 玄吾	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技＜基礎編＞」（公社）東洋療法学校協会編（医道の日本社）
参考書	特になし
成績評価	実技試験・出席状況・身だしなみを総合して評価する。
留意事項	医療従事者としてふさわしい服装で参加すること（ふさわしくない身だしなみ－4点）． 遅刻・欠席をしないこと（欠席－6点，遅刻－2点）． 感受性の差異に留意し，参加にあたっては体調管理に努めること． 火気の取り扱いに注意し，適切に器具を扱うこと．指示以外のことは行わないこと．

科目の目標	灸の基礎実習で学習した事を基に，基礎技術力のさらなる向上を目指す． 臨床において使用頻度の高い身体部位に対する施術方法を交え，担当教員により各部位のデモンストレーションを行い指導する．
授業概要	様々な灸法を学び，治療に使用することのできる技術を習得する．

実務経験	付属施術所で施術
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	ガイダンス・紙上施灸
2	糸状灸作成練習
3	対人施灸（透熱灸 復習）
4	対人施灸（腰部への灸）
5	対人施灸（温筒灸）
6	対人施灸（知熱灸）
7	対人施灸（肩背部への灸）
8	対人施灸（棒灸・箱灸）
9	対人施灸（腹部への灸）
10	対人施灸（隔物灸）

1 1	対人施灸（四肢への灸）
1 2	対人施灸（体調管理の灸）
1 3	定期試験①
1 4	定期試験②
1 5	フィードバック・総復習
1 6	総復習

科 目	鍼応用実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	後期
教 員 名	浅野 貴之	教員区分	実務教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 <はりきゅう編>」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「プロメテウス解剖学 アトラス解剖学 総論・運動器系」(医学書院)
成績評価	実技試験、出席点(1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。
留意事項	・体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも刺激できるようにすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・刺激部位の構造(骨、筋、靱帯、神経、血管)を必ず予習してくること。

科目の目標	「現代医学臨床論Ⅱ」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織(筋・神経・関節など)を中心に刺激方法を習得する。 さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の刺激見本を提示し、鍼尖の感触を経験した後に、各ペアで刺激練習をおこなう。

実務経験	鍼灸院を開業
実務経験と授業の関連	臨床で培った鍼灸の技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・鍼通電療法復習
2	鼻閉・鼻汁に関わる後頸部の刺激(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
3	咳嗽・喘息に関わる肩甲間部の刺激(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
4	肋間神経痛に関わる肩甲間部椎間関節への刺激(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
5	消化器系疾患に関わる腹部の反応点への刺激(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
6	消化器系疾患に関わる背部の反応点への刺激(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
7	婦人科疾患に関わる八髎穴への刺激(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
8	排尿障害に関わる組織の触察および触診(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)

9	インポテンツ関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
1 0	血圧異常に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
1 1	自律神経調整に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
1 2	不眠・疲労・倦怠に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
1 3	老年医学に関わる組織（大関節）へ刺鍼（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
1 4	定期試験
1 5	フィードバック
1 6	総復習

科 目	臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	
		履修区分	
		単 位 数	2
		時 間 数	90
		履修年次	2年次
		実施学期	前・後期
教 員 名	鍼灸学科教員	教員区分	実務教員

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし
成績評価	評価表に基づく
留意事項	臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握、理解し、適切な行動、患者応対ができる
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識、技術を学習する 臨床実習上で必要な各種の動作を学ぶ

実務経験	新宿医療専門学校付属左門町鍼灸院にて勤務
実務経験と授業の関連	臨床現場で経験した知識、技術を授業に取り入れる

日程【後期】

回 数	授業内容
1	・オリエンテーション ・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い ・接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握 ・鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、 ・抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科 目	衛生学・公衆衛生学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 学年
		実施学期	1 学期
教 員 名	渡辺 悠美	教員区分	一般教員

教 科 書	「衛生学・公衆衛生学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参 考 書	適宜紹介
成績評価	定期試験
留意事項	暗記する項目も多いため、復習を必ず行うこと。 不明点がある場合は、その都度質問すること。

科目の目標	衛生学・公衆衛生学とは何かを理解し、社会で問題となっている事柄について考える。 国家試験に向けて、問題を解くための力を身につける。
授業概要	授業は、パワーポイントと資料を用いて行う。 毎回、小テストを行う。

日程

回 数	授業内容
1	衛生学・公衆衛生学とは
2	健康
3	ライフスタイルと健康 ①
4	ライフスタイルと健康 ②
5	環境と健康 ①
6	環境と健康 ②
7	産業保健
8	精神保健
9	母子保健
1 0	感染症とその対策 ①
1 1	感染症とその対策 ②、消毒法
1 2	疫学
1 3	保健統計
1 4	復習
1 5	定期試験
1 6	解説

科 目	はりきゅう理論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3 学年
		実施学期	1 学期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教 科 書	配布資料、「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参 考 書	「はりきゅう実技<基礎編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「生理学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) ほか、適宜必要に応じて紹介する。
成績評価	定期試験
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。 基礎医学の知識を用いて学習内容が説明できるよう復習すること。

科目の目標	かつて、鍼灸は科学的根拠に乏しい治療と考えられてきたが、近年、科学的視点による鍼灸分野での基礎実験より得られた知見より、治効理論が構築されてきた。 また、科学技術の進歩により細胞内外での情報伝達や化学反応が可視化された事で、鍼灸領域においても新たな観点が加わりつつある。 本科目は、鍼灸治療に関わる基礎知識・作用機序を学習し、臨床において根拠ある施術ができるようになることを目標とする。
授業概要	鍼灸臨床で用いる器具・技術・衛生的処置をきちんと理解し、実践できる知識の習得を目指す。関わる専門用語の解説を行う。 鍼灸刺激による生体反応・作用機序を理解し、「施術方法の選択」や「施術の根拠」などについて解説する。

日程

回 数	授業内容
1	鍼の基礎知識、刺鍼の方式と術式、特殊鍼法
2	灸の基礎知識
3	鍼灸の臨床応用
4	リスク管理
5	鍼灸治効の基礎1：一般生理学
6	鍼灸治効の基礎2：痛みの生理学
7	鍼灸治効の基礎3：鍼鎮痛とは
8	鍼灸治効の基礎4：下行性痛覚抑制系
9	鍼灸治効の基礎5：下行性痛覚抑制系以外の鍼鎮痛
10	鍼灸療法の一般治効理論1：自律神経生理学

1 1	鍼灸療法の一般治効理論 2：自律神経反射
1 2	鍼灸療法の一般治効理論 3：鍼灸施術による自律神経反応
1 3	関連学説 1
1 4	関連学説 2
1 5	定期試験
1 6	解答・解説

科 目	鍼基礎実習Ⅴ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 学年
		実施学期	1 学期
教 員 名	森田 義之	教員区分	実務教員

教 科 書	特になし
参 考 書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「運動療法のための機能解剖学的触診技術 第2版 上肢、下肢・体幹」 (メジカルビュー社) 「プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」(医学書院)
成績評価	実技試験、出席、授業態度を総合的に評価する。
留意事項	体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 実習中はリスク管理に努め、無理な刺鍼や施灸は絶対にしないこと。 臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺鍼部位の構造(骨、筋、靭帯、神経、血管)を必ず予習しておくこと。

科目の目標	鍼灸施術するために必要な知識・技術を習得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学(解剖学・生理学)の知識、鍼基技術を基にして、実践的な臨床で使える鍼灸施術を学ぶ。運動学を基本とし、3Dで筋肉を理解し刺鍼を行う。鍼灸治療について教員がデモを行う。体表所見の取り方などを学び、刺鍼練習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション
2	刺鍼方法の基礎
3	僧帽筋の基礎知識と刺鍼法
4	肩甲拳筋の基礎知識と刺鍼法
5	棘下筋の基礎知識と刺鍼法
6	肩甲下筋の基礎知識と刺鍼法
7	三角筋の基礎知識と刺鍼法
8	脊柱起立筋の基礎知識と刺鍼法
9	大臀筋、中殿筋、小殿筋の基礎知識と刺鍼法
10	半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋の基礎知識と刺鍼法

1 1	大腿四頭筋の基礎知識と刺鍼法
1 2	下腿三頭筋の基礎知識と刺鍼法
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	フィードバック
1 6	総まとめ

科 目	総合解剖学Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	32
		履修年次	3 学年
		実施学期	1 学期
教 員 名	山口 智也	教員区分	一般教員

教科書	配布プリント
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。 国家試験の過去問に積極的に取り組むこと。

科目の目標	国家試験に向け基礎力を固め、考える力を養う。
授業概要	解剖学を中心に国家試験対策を総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	人体の構造(細胞・組織・体表構造・人体の区分と方向)
2	運動器系(総論:骨格系・筋系, 骨格:脊柱・胸郭, 体幹:筋・運動・局所解剖・脈管・神経)
3	運動器系(上肢骨格, 上肢筋・運動・局所解剖・脈管・神経)
4	運動器系(下肢骨格, 下肢筋・運動・局所解剖・脈管・神経)
5	運動器系(頭蓋骨, 頭頸部筋・体表および局所解剖・脈管・末梢神経)
6	循環器系(血管系・心臓・動脈系・静脈系・胎児循環・リンパ系)
7	循環器系(血管系・心臓・動脈系・静脈系・胎児循環・リンパ系)
8	消化器系(消化管基本構造・口腔・咽頭・食道・胃・小腸)
9	消化器系(大腸・肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜), 泌尿器系(腎臓・尿路)
10	神経系(神経系構成・中枢神経系)
11	神経系(伝導路・末梢神経系)
12	神経系(中枢神経系・末梢神経系・伝導路)
13	呼吸器系(鼻腔・副鼻腔・咽頭喉頭・気管・気管支・肺), 内分泌系(下垂体・松果体・甲状腺・上皮小体・副腎・膵臓・性腺)
14	感覚器系(視覚・平衡聴覚器・味覚・嗅覚器), 生殖系(男性・女性・受精と発生)
15	定期試験
16	解答・解説, 総復習

科 目	総合生理学Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	32
		履修年次	3 学年
		実施学期	1 学期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 3 版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	国家試験過去問題集
成績評価	定期試験
留意事項	生理学の基礎知識の確認と苦手なポイントを再確認する

科目の目標	生理学やその他の科目もリンクして学習を効率良く行う
授業概要	国家試験に向けた内容の総復習

日程

回 数	授業内容
1	生理学の復習と理解度チェック
2	血液循環の復習と過去問題の検討
3	生体防御機構の復習と過去問題の検討
4	呼吸の復習と過去問題の検討
5	代謝の復習と過去問題の検討
6	消化と吸収の復習と過去問題の検討
7	排泄の復習と過去問題の検討
8	内分泌の復習と過去問題の検討①
9	内分泌の復習と過去問題の検討②
10	性ホルモンの復習と過去問題の検討
11	神経系の復習と過去問題の検討①
12	神経系の復習と過去問題の検討②
13	神経系の復習と過去問題の検討③
14	まとめ
15	定期試験
16	解答と解説

科 目	総合リハビリ医学Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 学年
		実施学期	1 学期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教 科 書	配布資料
参 考 書	「リハビリテーション医学 第4版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	復習を行うこと

科目の目標	2 学年で習得したリハビリテーションの基礎力を固め、より深く考えられる力を養う
授業概要	様々なリハビリテーションの諸問題を解決していく。

日程

回 数	授業内容
1	総合リハビリ医学①
2	総合リハビリ医学②
3	総合リハビリ医学③
4	総合リハビリ医学④
5	総合リハビリ医学⑤
6	総合リハビリ医学⑥
7	総合リハビリ医学⑦
8	総合リハビリ医学⑧
9	総合リハビリ医学⑨
1 0	総合リハビリ医学⑩
1 1	総合リハビリ医学⑪
1 2	総合リハビリ医学⑫
1 3	総合リハビリ医学⑬
1 4	総合リハビリ医学⑭
1 5	定期試験
1 6	解答と解説

科 目	総合経穴学Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 学年
		実施学期	1 学期
教 員 名	北園 実鈴	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 適宜プリントを配布
参 考 書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験
留意事項	十四経について所属する経穴名が暗唱できること。 欠席をしないこと。 予習・復習を必ず行い、記憶すること。 国家試験の過去問に積極的に取り組むこと。

科目の目標	国家試験に向け基礎力を固め、考える力を養う。
授業概要	経絡経穴概論の国家試験対策を総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	十四経書き取り①
2	十四経書き取り②
3	流注・骨度法
4	取穴部位・要穴①
5	取穴部位・要穴②
6	取穴部位・要穴③
7	取穴部位・要穴④
8	取穴部位・要穴⑤
9	取穴部位・要穴⑥
1 0	取穴部位・要穴⑦
1 1	取穴部位・要穴⑧
1 2	奇経・奇穴など
1 3	頸部・顔面・頭部：取穴部位
1 4	取穴部位のまとめ
1 5	定期試験
1 6	解答・解説，総復習

科 目	総合東洋医学Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	32
		履修年次	3 学年
		実施学期	1 学期
教 員 名	棚田 徹也	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
成績評価	定期試験
留意事項	配布する資料を必ず持参すること。必ず復習を行うこと。

科目の目標	国家試験の問題に対応できる知識と応用力の習得を目標とする。
授業概要	東洋医学概論の復習を行う。 国家試験過去問題を基に問題の解き方を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	総合東洋医学 1
2	総合東洋医学 2
3	総合東洋医学 3
4	総合東洋医学 4
5	総合東洋医学 5
6	総合東洋医学 6
7	総合東洋医学 7
8	総合東洋医学 8
9	総合東洋医学 9
10	総合東洋医学 10
11	総合東洋医学 11
12	総合東洋医学 12
13	総合東洋医学 13
14	総復習
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	総合演習Ⅰ（総合臨床） 2コマ1日程	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単位数	
		時間数	64
		履修年次	3学年
		実施学期	1学期
教員名	鍼灸学科教員	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	適宜紹介
成績評価	評価表に基づく
留意事項	臨床の場に相応しい服装、態度で臨むこと。

科目の目標	基礎医学に基づき、施術所来院患者に対し、的確な治療を体系立てて行えるように学習する。 治療の意義や目的を理解し、学生自身が自ら治療計画を立案できるように学習する。
授業概要	実際の臨床の中で患者を診ながら学習を進める。1年次、2年次を通し基礎的な授業で学んできた実技と理論を実際の臨床のなかで治療として行えるよう総合的に学習する。

日程

回数	授業内容
1・2	治療の準備・治療の組立て・刺鍼・抜鍼・カルテの記載など
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11・12	
13・14	
15・16	
17・18	
19・20	
21・22	
23・24	
25・26	
27・28	
29・30	
31・32	評価、治療の準備・治療の組立て・刺鍼・抜鍼・カルテの記載など

科 目	社会鍼灸学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし。配布資料にて実施。
参 考 書	「医療概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「関係法規 第7版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「衛生学・公衆衛生学 第2版」(公社)東洋医療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	復習を行うこと

科目の目標	社会と鍼灸の関連を考察する。 今までに学んだ医療概論、関係法規、衛生学・公衆衛生学から社会鍼灸学に関連が深い範囲を再考察する。
授業概要	社会鍼灸学を学ぶとともに、それに関連の深い医療概論、関係法規、衛生学・公衆衛生学を併せて学んでいく。

日程

回 数	授業内容
1	社会鍼灸学と医療
2	社会鍼灸学と法規①
3	社会鍼灸学と法規②
4	社会鍼灸学と公衆衛生①
5	社会鍼灸学と公衆衛生②
6	社会鍼灸学と公衆衛生③
7	社会鍼灸学と公衆衛生④
8	社会鍼灸学と公衆衛生⑤
9	社会鍼灸学と公衆衛生⑥
10	社会鍼灸学と公衆衛生⑦
11	社会鍼灸学と公衆衛生⑧
12	社会鍼灸学と公衆衛生⑨
13	社会鍼灸学と公衆衛生⑩
14	社会鍼灸学と公衆衛生⑪
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	鍼基礎実習Ⅵ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	金子 尚史	教員区分	実務教員

教 科 書	特になし。テーマに沿ったテキストにて配布。
参 考 書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」(医学書院) 「ネッター 解剖学アトラス」(南江堂) 「クリニカルマッサージ」(医道の日本社)
成績評価	出席(1回欠席-6点・1回遅刻-2点)、相応しくない身だしなみ(-4点)、授業態度、実技試験を総合的に評価する。
留意事項	体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため、できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め、無理な刺激は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺激部位の構造(骨、筋、靱帯、神経、血管)を必ず予習してくること。

科目の目標	触診、刺激技術の更なる向上と、様々な疾患に対して鍼灸治療を行うための、基本的な刺激技術や鍼通電技術を獲得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学(解剖学、生理学)と実技実習(鍼基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床評価実習Ⅰ・Ⅱ、鍼灸応用実習Ⅰ・Ⅱ)の知識と技術を基にして、鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の、基礎となるパルス治療、特に筋パルスの技術を獲得する。

実務経験	講師歴22年 臨床歴22年 鍼灸、手技療法(あん摩・マッサージ・指圧・骨格矯正など)
実務経験と授業の関連	臨床においては患者様の需要と、我々施術側の供給の一致、何よりも適切で安全な施術が重要になります。2年間の基礎と、実務に応用できる内容の授業を実務経験のもとに行います。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション(鍼について、灸について)、刺鍼(基礎)、リスクマネジメント…安全に刺鍼するには
2	身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺鍼法①肩甲骨周囲
3	身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺鍼法②前胸部、上肢
4	背部筋を使って反応部位の探し方と刺激量の調節の仕方
5	身体バランスの見方、体幹部(背部)刺鍼法①
6	身体バランスの見方、体幹部②腹部 兪募配穴との組み合わせ
7	下肢帯①(骨盤、股関節)刺鍼法
8	下肢帯②(骨盤、股関節、下腿)刺鍼法
9	局所治療①頸部(斜角筋)～肩関節刺鍼法
10	局所治療②膝刺鍼法
11	全身調整～後療法①
12	全身調整～後療法②
13	症状に応じた施術、組み立て
14	実技試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	総合解剖学Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	山口 智也	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし。配布資料で実施する。
参 考 書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。 鍼灸師にとって必要な解剖学の知識を確認すること。

科目の目標	解剖学の基礎力を固め、考える力を養う。
授業概要	解剖学を中心に総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	総合解剖学 1
2	総合解剖学 2
3	総合解剖学 3
4	総合解剖学 4
5	総合解剖学 5
6	総合解剖学 6
7	総合解剖学 7
8	総合解剖学 8
9	総合解剖学 9
10	総合解剖学 10
11	総合解剖学 11
12	総合解剖学 12
13	総合解剖学 13
14	総合解剖学 14
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	総合生理学Ⅱ	分野区分	専 門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教 科 書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参 考 書	「病気がみえる」シリーズ (メディックメディア)
成績評価	定期試験により評価
留意事項	専門用語の位置づけ、各用語間の関連付けや、各用語の類似点・相違点の再確認を行う。 用語の理解が足りない点については授業時間以上の時間を割いて学習すること。

科目の目標	教育目標： 生理学教科書の各章ごとの概要・分類項目について全体像を意識させる。 到達目標： 生理学教科書にある専門用語について、概ね解説ができる。
授業概要	教科書について、印象付けを強くしておくべき内容の再確認を中心とする。

日程

回 数	授業内容
1	神経(末梢神経・自律神経)の復習①
2	神経(末梢神経・自律神経)の復習②
3	体温の復習
4	筋の復習①
5	筋の復習②
6	運動の復習①
7	運動の復習②
8	感覚の復習①
9	感覚の復習②
10	生理学まとめ①
11	生理学まとめ②
12	生理学まとめ③
13	生理学まとめ④
14	生理学まとめ⑤
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	総合病理学Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	32
		履修年次	3 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教科書	「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「標準病理学」(医学書院) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験による評価
留意事項	中心は病理学だが、対比すべき生理学、病理学の指標を用いる臨床医学総論および臨床医学各論の勉強との並行が必要あり。

科目の目標	教育目標： 病理学に頻出する専門用語についての理解の定着、検査や疾患概念を理解する為の土台となる分類項目の把握を目指す。 到達目標： 病理学でよく問われやすい内容を中心に理解して、応用も効くようになること。
授業概要	病理学および関連科目の学習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	疾病の復習
2	病因の復習
3	循環障害の復習①
4	循環障害の復習②
5	退行性病変の復習
6	進行性病変の復習
7	炎症の復習①
8	炎症の復習②
9	腫瘍の復習①
10	腫瘍の復習②
11	免疫異常・アレルギーの復習①
12	免疫異常・アレルギーの復習②
13	先天性異常の復習と過去問題の検討
14	まとめ
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	総合臨床総論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	32
		履修年次	3 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教 科 書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	復習を必ず行い、記録・保存・想起の訓練を行ってください。

科目の目標	臨床医学総論の領域について、全範囲の再確認と練度の向上を目指す。
授業概要	臨床検査で頻出する項目について、意味と評価から得られる情報を疾患別の特徴と病態概念との結びつきについて前学期までで習得した知識とのすり合わせを行う。

日程

回 数	授業内容
1	診察の意義・順序、医療面接の方法・記録方法、生命徴候の診察1
2	生命徴候の診察2、全身の診察1(静的な所見：色調など)
3	全身の診察2(動的な所見：運動機能など)
4	臨床検査法(尿検査、便検査)
5	血液検査・血液生化学検査1
6	血液生化学検査2、画像診断の分類と特性
7	頭部顔面部の所見・症状
8	特殊感覚器官の所見・症状
9	胸部(体表および呼吸器)の所見・症状
10	腹部(体表および消化器)の所見・症状
11	腰部および生殖器・排泄器の所見・症状
12	その他の評価法・治療法1
13	その他の評価法・治療法2
14	総括
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	総合臨床医学Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	32
		履修年次	3 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教 科 書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学各論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	関連教材から適宜
成績評価	定期試験
留意事項	総合的な学習となるので、必要と思われる分野の事前学習を行う事。

科目の目標	上述の各教科書分野について、各用語にみられる関連性を意識付けし、問題解決能力の向上を目指す。
授業概要	例題などを用いながら、臨床医学分野と基礎医学分野の医学用語の運用に慣れる事や、症例の読解訓練を行う。

日程

回 数	授業内容
1	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 1
2	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 2
3	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 3
4	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 4
5	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 5
6	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 6
7	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 7
8	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 8
9	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 9
10	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 10

1 1	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 1 1
1 2	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 1 2
1 3	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 1 3
1 4	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 1 4
1 5	定期試験
1 6	解答と解説、授業総括

科 目	総合臨床各論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	32
		履修年次	3 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	特になし。配布資料にて実施。
参考書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。必ず復習を行い記憶すること。

科目の目標	今までに学んだ臨床医学の疾患をより深く学んでいく。
授業概要	一つ一つの疾患の特徴をより深く知ることにより、なぜ病気が発症し、なぜこの症状が出るのかを暗記ではなく理解できるようにしていく。

日程

回 数	授業内容
1	感染症①
2	感染症②
3	消化器疾患①
4	消化器疾患②
5	肝・胆・膵疾患①
6	肝・胆・膵疾患② 呼吸器疾患①
7	呼吸器疾患②
8	腎・尿器疾患
9	内分泌疾患
10	代謝・栄養疾患
11	循環器疾患①
12	循環器疾患②
13	血液・造血疾患
14	総復習
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	総合経穴学Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	32
		履修年次	3 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	北園 実鈴	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「経絡・ツボの教科書」(新星出版社) 「東洋医学の教科書」(ナツメ社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 配布プリント
成績評価	定期試験
留意事項	復習を欠かさず行うこと。 鍼灸師として必要な経穴の知識を確認しておくこと。

科目の目標	経絡経穴概論の基礎力を固め、考える力を養う。
授業概要	経絡経穴概論の内容を総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	経穴総合 1
2	経穴総合 2
3	経穴総合 3
4	経穴総合 4
5	経穴総合 5
6	経穴総合 6
7	経穴総合 7
8	経穴総合 8
9	経穴総合 9
10	経穴総合 10
11	経穴総合 11
12	経穴総合 12
13	経穴総合 13
14	経穴総合 14
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	総合東洋医学Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	棚田 徹也	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし。配布資料にて実施。
参 考 書	「東洋医学臨床論<はりきゅう編>」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験
留意事項	復習を欠かさず行うことが肝心です。

科目の目標	東洋医学の総まとめを行う。
授業概要	東洋医学臨床論の復習を行う。 進行状況に応じて小テストを行いますので常に復習を心掛けること。

日程

回 数	授業内容
1	総合東洋医学 1
2	総合東洋医学 2
3	総合東洋医学 3
4	総合東洋医学 4
5	総合東洋医学 5
6	総合東洋医学 6
7	総合東洋医学 7
8	総合東洋医学 8
9	総合東洋医学 9
1 0	総合東洋医学 1 0
1 1	総合東洋医学 1 1
1 2	総合東洋医学 1 2
1 3	総合東洋医学 1 3
1 4	総合東洋医学 1 4
1 5	定期試験
1 6	解答・解説

科 目	総合生理学Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教 科 書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「病気がみえる」シリーズ (メディックメディア)
成績評価	定期試験により評価
留意事項	専門用語の位置づけ、各用語間の関連付けや、各用語の類似点・相違点の再確認を行う。 用語の理解が足りない点については授業時間以上の時間を割いて学習すること。

科目の目標	教育目標： 生理学教科書の各章ごとの概要・分類項目について全体像を意識させる。 到達目標： 生理学教科書にある専門用語について、概ね解説ができる。
授業概要	教科書について、印象付けを強くしておくべき内容の再確認を中心とする。

日程

回 数	授業内容
1	神経(末梢神経・自律神経)の復習①
2	神経(末梢神経・自律神経)の復習②
3	体温の復習
4	筋の復習①
5	筋の復習②
6	運動の復習①
7	運動の復習②
8	感覚の復習①
9	感覚の復習②
10	生理学まとめ①
11	生理学まとめ②
12	生理学まとめ③
13	生理学まとめ④
14	生理学まとめ⑤
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	総合病理学Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	32
		履修年次	3 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教科書	「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「標準病理学」(医学書院) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験による評価
留意事項	中心は病理学だが、対比すべき生理学、病理学の指標を用いる臨床医学総論および臨床医学各論の勉強との並行が必要あり。

科目の目標	教育目標： 病理学に頻出する専門用語についての理解の定着、検査や疾患概念を理解する為の土台となる分類項目の把握を目指す。 到達目標： 病理学でよく問われやすい内容を中心に理解して、応用も効くようになること。
授業概要	病理学および関連科目の学習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	疾病の復習
2	病因の復習
3	循環障害の復習①
4	循環障害の復習②
5	退行性病変の復習
6	進行性病変の復習
7	炎症の復習①
8	炎症の復習②
9	腫瘍の復習①
10	腫瘍の復習②
11	免疫異常・アレルギーの復習①
12	免疫異常・アレルギーの復習②
13	先天性異常の復習と過去問題の検討
14	まとめ
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	総合臨床総論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	32
		履修年次	3 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	復習を必ず行い、記銘・保存・想起の訓練を行ってください。

科目の目標	臨床医学総論の領域について、全範囲の再確認と練度の向上を目指す。
授業概要	臨床検査で頻出する項目について、意味と評価から得られる情報を疾患別の特徴と病態概念との結びつきについて前学期までで習得した知識とのすり合わせを行う。

日程

回 数	授業内容
1	診察の意義・順序、医療面接の方法・記録方法、生命徴候の診察1
2	生命徴候の診察2、全身の診察1(静的な所見：色調など)
3	全身の診察2(動的な所見：運動機能など)
4	臨床検査法(尿検査、便検査)
5	血液検査・血液生化学検査1
6	血液生化学検査2、画像診断の分類と特性
7	頭部顔面部の所見・症状
8	特殊感覚器官の所見・症状
9	胸部(体表および呼吸器)の所見・症状
10	腹部(体表および消化器)の所見・症状
11	腰部および生殖器・排泄器の所見・症状
12	その他の評価法・治療法1
13	その他の評価法・治療法2
14	総括
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	総合臨床医学Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	32
		履修年次	3 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学各論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	関連教材から適宜
成績評価	定期試験
留意事項	総合的な学習となるので、必要と思われる分野の事前学習を行う事。

科目の目標	上述の各教科書分野について、各用語にみられる関連性を意識付けし、問題解決能力の向上を目指す。
授業概要	例題などを用いながら、臨床医学分野と基礎医学分野の医学用語の運用に慣れる事や、症例の読解訓練を行う。

日程

回 数	授業内容
1	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 1
2	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 2
3	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 3
4	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 4
5	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 5
6	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 6
7	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 7
8	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 8
9	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 9
10	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 10

1 1	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 1 1
1 2	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 1 2
1 3	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 1 3
1 4	総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 1 4
1 5	定期試験
1 6	解答と解説、授業総括

科 目	総合演習Ⅱ（総合臨床） 2コマ1日程	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	64
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教 員 名	鍼灸学科教員	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	適宜紹介
成績評価	評価表に基づく
留意事項	臨床の場に相応しい服装、態度で臨むこと。

科目の目標	基礎医学に基づき、施術所来院患者に対し、的確な治療を体系立てて行えるように学習する。 治療の意義や目的を理解し、学生自身が自ら治療計画を立案できるように学習する。
授業概要	実際の臨床の中で患者を診ながら学習を進める。1年次、2年次を通し基礎的な授業で学んできた実技と理論を実際の臨床のなかで治療として行えるよう総合的に学習する。

日程

回 数	授業内容
1・2	 治療の準備・治療の組立て・刺鍼・抜鍼・カルテの記載など
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11・12	
13・14	
15・16	
17・18	
19・20	
21・22	
23・24	
25・26	
27・28	
29・30	
31・32	評価、治療の準備・治療の組立て・刺鍼・抜鍼・カルテの記載など

科 目	総合演習Ⅲ（総合臨床） 2コマ1日程	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	64
		履修年次	3 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	鍼灸学科教員	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	適宜紹介
成績評価	評価表に基づく
留意事項	臨床の場に相応しい服装、態度で臨むこと。

科目の目標	基礎医学に基づき、施術所来院患者に対し、的確な治療を体系立てて行えるように学習する。 治療の意義や目的を理解し、学生自身が自ら治療計画を立案できるように学習する。
授業概要	実際の臨床の中で患者を診ながら学習を進める。1年次、2年次を通し基礎的な授業で学んできた実技と理論を実際の臨床のなかで治療として行えるよう総合的に学習する。

日程

回 数	授業内容
1・2	治療の準備・治療の組立て・刺鍼・抜鍼・カルテの記載など
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11・12	
13・14	
15・16	
17・18	
19・20	
21・22	
23・24	
25・26	
27・28	
29・30	
31・32	評価、治療の準備・治療の組立て・刺鍼・抜鍼・カルテの記載など

科 目	総合解剖学Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	山口 智也	教員区分	一般教員

教 科 書	配布プリント
参 考 書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。

科目の目標	基礎力を固め、考える力を養う。
授業概要	解剖学を中心に総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	総合解剖学①
2	総合解剖学②
3	総合解剖学③
4	総合解剖学④
5	定期試験・まとめ
6	解答・解説
7	総合演習①
8	総合演習②

科 目	総合生理学Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教 科 書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「病気がみえる」シリーズ (メディックメディア) 他、適宜紹介する。
成績評価	定期試験
留意事項	授業コマが少ないため欠席に気をつけること。

科目の目標	教育目標： 生理学教科書の各章ごとの概要・分類項目について全体像を意識させる。 到達目標： 生理学教科書にある専門用語について、概ね解説ができる。
授業概要	生理学・病理学における重点ポイントを復習する。

日程

回 数	授業内容
1	総合演習 1
2	総合演習 2
3	総合演習 3
4	総合演習 4
5	定期試験
6	総合演習 5
7	総合演習 6
8	総合演習 7

科 目	総合臨床総論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	金子 尚史	教員区分	一般教員

教 科 書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 配布プリント
参 考 書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。

科目の目標	総合的に考える力を養い、応用力をつける。
授業概要	臨床医学総論を中心に総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	総合臨床総論①
2	総合臨床総論②
3	総合臨床総論③
4	総合臨床総論④
5	定期試験・まとめ
6	解答・解説
7	総合演習①
8	総合演習②

科 目	総合臨床医学Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	下 山 隆 朗	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし。配布資料にて実施。
参 考 書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。必ず復習を行い理解すること。

科目の目標	今までに学んだ臨床医学をより深く学んでいく。
授業概要	一つ一つの病態を詳しく学んでいく

日程

回 数	授業内容
1	種々の疾患の病態を理解する①
2	種々の疾患の病態を理解する②
3	種々の疾患の病態を理解する③
4	種々の疾患の病態を理解する④
5	定期試験・まとめ
6	解答・解説
7	種々の疾患の病態を理解する⑤
8	総合演習

科 目	総合臨床医学Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	「基礎中医学」神戸中医学研究所 編著 (燎原書店) 「針灸学[基礎篇]」後藤学園/天津中医薬大学 著 (東洋学術出版) 「症状による中医診断と治療 上下巻」神戸中医学研究所 編著 (燎原書店)
成績評価	定期試験
留意事項	授業コマが少ないため欠席に気をつけること。

科目の目標	今まで学習した東洋医学について分析を行い、自身の苦手分野を把握し、理解する。
授業概要	東洋医学概論と東洋医学臨床論の重要ポイントを復習する。

日程

回 数	授業内容
1	総合演習①
2	総合演習②
3	総合演習③
4	総合演習④
5	定期試験
6	総合演習⑤
7	総合演習⑥
8	総合演習⑦

科 目	総合臨床医学Ⅳ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教 科 書	配布プリント
参 考 書	「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「リハビリテーション医学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「はりきゅう理論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	復習を欠かさず行うこと。 医学知識の総合的な理解を目指すこと。

科目の目標	医学的知識による問題解決能力を養う。
授業概要	鍼灸師の習得すべき知識について総合的な学習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	総合演習①
2	総合演習②
3	総合演習③
4	総合演習④
5	定期試験・まとめ
6	解説
7	総合演習①
8	総合演習②

科 目	総合臨床各論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし。配布資料にて実施。
参 考 書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。必ず復習を行い理解すること。

科目の目標	今までに学んだ臨床医学の疾患をより深く学んでいく。
授業概要	一つ一つの疾患を深く学ぶ、暗記をするのではなく、なぜ病気が発症し、なぜこの症状が出るのかを理解できるようにしていく。

日程

回 数	授業内容
1	種々の疾患を学ぶ①
2	種々の疾患を学ぶ②
3	種々の疾患を学ぶ③
4	種々の疾患を学ぶ④
5	定期試験
6	解答・解説
7	総合演習①
8	総合演習②

科 目	総合はき理論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教 科 書	配布プリントおよび学校協会教科書
参 考 書	「はりきゅう理論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。 国家試験の過去問に積極的に取り組むこと。

科目の目標	鍼灸でみられる治療に関わる働きを考える力を養い、応用力をつける。
授業概要	はりきゅう理論、その他関連科目の総合的学習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	総合的な生理・臨床医学・はりきゅう理論の学習①
2	総合的な生理・臨床医学・はりきゅう理論の学習②
3	総合的な生理・臨床医学・はりきゅう理論の学習③
4	総合的な生理・臨床医学・はりきゅう理論の学習④
5	定期試験・まとめ
6	総合的な生理・臨床医学・はりきゅう理論の学習⑤
7	総合演習①
8	総合演習②

科 目	総合経穴学Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	北園 実鈴	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	「経絡・ツボの教科書」兵頭 明 著 (新星出版社) 「基本としくみがよくわかる東洋医学の教科書」平馬 直樹ら 監修 (ナツメ社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 配布プリント
成績評価	定期試験
留意事項	復習を欠かさず行うこと。 国家試験の過去問を繰り返し解くこと。

科目の目標	国家試験に向け考える力を養う
授業概要	経絡経穴概論の国家試験対策を総合的に行う

日程

回 数	授業内容
1	経穴演習①
2	経穴演習②
3	経穴演習③
4	経穴演習④
5	定期試験・まとめ
6	経穴演習⑤
7	経穴演習⑥
8	総合演習⑦

科 目	総合東洋医学Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	棚田 徹也	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験
留意事項	必ず復習を行うこと。

科目の目標	知識と応用力の習得を目標とする。
授業概要	東洋医学概論を中心に総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	総合東洋医学①
2	総合東洋医学②
3	総合東洋医学③
4	総合東洋医学④
5	定期試験
6	解答・解説
7	総合演習①
8	総合演習②

科 目	総合生理学Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教 科 書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「病気がみえる」シリーズ (メディックメディア) 他、適宜紹介する。
成績評価	定期試験
留意事項	授業コマが少ないため欠席に気をつけること。

科目の目標	教育目標： 生理学教科書の各章ごとの概要・分類項目について全体像を意識させる。 到達目標： 生理学教科書にある専門用語について、概ね解説ができる。
授業概要	生理学・病理学における重点ポイントを復習する。

日程

回 数	授業内容
1	総合演習 1
2	総合演習 2
3	総合演習 3
4	総合演習 4
5	定期試験
6	総合演習 5
7	総合演習 6
8	総合演習 7

科 目	総合臨床医学Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	特になし。配布資料にて実施。
参考書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。必ず復習を行い理解すること。

科目の目標	今までに学んだ臨床医学をより深く学んでいく。
授業概要	一つ一つの病態を詳しく学んでいく

日程

回 数	授業内容
1	種々の疾患の病態を理解する①
2	種々の疾患の病態を理解する②
3	種々の疾患の病態を理解する③
4	種々の疾患の病態を理解する④
5	定期試験・まとめ
6	解答・解説
7	種々の疾患の病態を理解する⑤
8	総合演習

科 目	総合臨床医学Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「基礎中医学」神戸中医学研究所 編著 (燎原書店) 「針灸学[基礎篇]」後藤学園/天津中医薬大学 著 (東洋学術出版) 「症状による中医診断と治療 上下巻」神戸中医学研究所 編著 (燎原書店)
成績評価	定期試験
留意事項	授業コマが少ないため欠席に気をつけること。

科目の目標	今まで学習した東洋医学について分析を行い、自身の苦手分野を把握し、理解する。
授業概要	東洋医学概論と東洋医学臨床論の重要ポイントを復習する。

日程

回 数	授業内容
1	総合演習①
2	総合演習②
3	総合演習③
4	総合演習④
5	定期試験
6	総合演習⑤
7	総合演習⑥
8	総合演習⑦

科 目	総合はき理論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教 科 書	配布プリントおよび学校協会教科書
参 考 書	「はりきゅう理論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。 国家試験の過去問に積極的に取り組むこと。

科目の目標	鍼灸でみられる治療に関わる働きを考える力を養い、応用力をつける。
授業概要	はりきゅう理論、その他関連科目の総合的学習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	総合的な生理・臨床医学・はりきゅう理論の学習①
2	総合的な生理・臨床医学・はりきゅう理論の学習②
3	総合的な生理・臨床医学・はりきゅう理論の学習③
4	総合的な生理・臨床医学・はりきゅう理論の学習④
5	定期試験・まとめ
6	総合的な生理・臨床医学・はりきゅう理論の学習⑤
7	総合演習①
8	総合演習②

科 目	現代医学診察法	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	森田 義之	教員区分	実務教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	特になし
成績評価	定期試験による評価
留意事項	解剖学の運動器を復習しておくこと

科目の目標	痛みに対する療法のトリガーポイントの基礎を理解し、臨床現場で適切な患者応対ができるようにする。
授業概要	習熟度が一定レベルに到達するよう、診断論と治療論の習熟に努める。

実務経験	鍼灸院を開業
実務経験と授業の関連	臨床で培った鍼灸の技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	トリガーポイント鍼療法概論
2	頸椎における筋の力学と鍼灸への応用
3	腰椎における筋活動の力学と鍼灸への応用
4	肩複合体における筋活動の力学と鍼灸への応用
5	膝関節における筋活動の力学と鍼灸への応用
6	自律神経とトリガーポイント鍼療法の関係
7	定期試験・フィードバック
8	授業総括

科 目	東洋医学診察法	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	岡田 明三	教員区分	実務教員

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「日本鍼灸医学 基礎編」 (経絡治療学会)
成績評価	臨床カルテ作成による評価
留意事項	教育用診察録(岡田作成)を使用

科目の目標	東洋医学的診断を修得
授業概要	座学と診断法の実習

実務経験	鍼灸院を開業
実務経験と授業の関連	臨床で培った鍼灸の技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	東洋医学的診断の総論(四診について)
2	東洋医学的診断の各論(望診、聞診、問診)
3	東洋医学的診断の各論(切診)
4	診察法の実際
5	臨床カルテ作成①
6	臨床カルテ作成②
7	定期試験
8	授業総括

科 目	中医学診察法	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	石田 大弥	教員区分	実務教員

教 科 書	特に必要なし（配布資料で行います）
参 考 書	配布資料
成績評価	定期試験による
留意事項	体調管理に勤め、遅刻・早退・欠席の無いよう心がける。

科目の目標	中医学の理論体系を理解し、鍼灸臨床へ応用する。
授業概要	中医学の基礎 ～ 臨床応用を学ぶ

実務経験	病院にて鍼灸臨床を行う
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に活かす

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・中医学基礎理論①
2	中医学基礎理論②
3	中医学基礎理論③
4	中医学臨床論①
5	中医学臨床論②
6	定期試験
7	フィードバック
8	まとめ

科 目	美容鍼灸	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実技
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	16
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	北見 成達	教員区分	実務教員

教 科 書	配布資料
参 考 書	配布資料
成績評価	実技試験と出欠席状況による総合評価
留意事項	復習、予習につとめ、実習に相応しい服装、身だしなみを心がけ参加すること。

科目の目標	美容鍼灸に必要な知識と技術を習得し、個々の主訴に対応する美容鍼灸施術を習得する。
授業概要	鍼灸施術による健康状態の改善方法と、各損容性疾患の発生機序と対応施術を学習する。

実務経験	鍼灸院を開業
実務経験と授業の関連	臨床で培った鍼灸の技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	講義「美容鍼灸とその効果について」及び実技「表情筋の触察」
2	フェイシャル
3	各損容性疾患（シワ、くま、ニキビ等）の症状に応じた刺鍼①
4	各損容性疾患（シワ、くま、ニキビ等）の症状に応じた刺鍼②
5	各損容性疾患（シワ、くま、ニキビ等）の症状に応じた刺鍼③
6	実技試験・各損容性疾患（シワ、くま、ニキビ等）の症状に応じた刺鍼④
7	フィードバック
8	まとめ

科 目	総合演習Ⅳ（総合臨床）	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	
		時 間 数	32
		履修年次	3 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	鍼灸学科教員	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし
成績評価	臨床録と出席状況に基づく
留意事項	臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと。

科目の目標	治療の一連を、来院患者に対する確に体系立てて行えるようにする。
授業概要	本校での教育の核となる臨床教育の最終部分となる授業である。 実際の臨床の中で患者を診ながら学習を進める。1 年次、2 年次、3 年次を通し基礎的な授業で学んできた実技と理論を実際の臨床のなかで治療として行えるよう総合的に学習する。

日程

回 数	授業内容
1	総合臨床①
2	総合臨床②
3	総合臨床③
4	総合臨床④
5	総合臨床⑤
6	総合臨床⑥
7	総合臨床⑦
8	総合臨床⑧
9	総合臨床⑨
10	総合臨床⑩
11	総合臨床⑪
12	総合臨床⑫
13	総合臨床⑬
14	総合臨床⑭
15	まとめ①
16	まとめ②